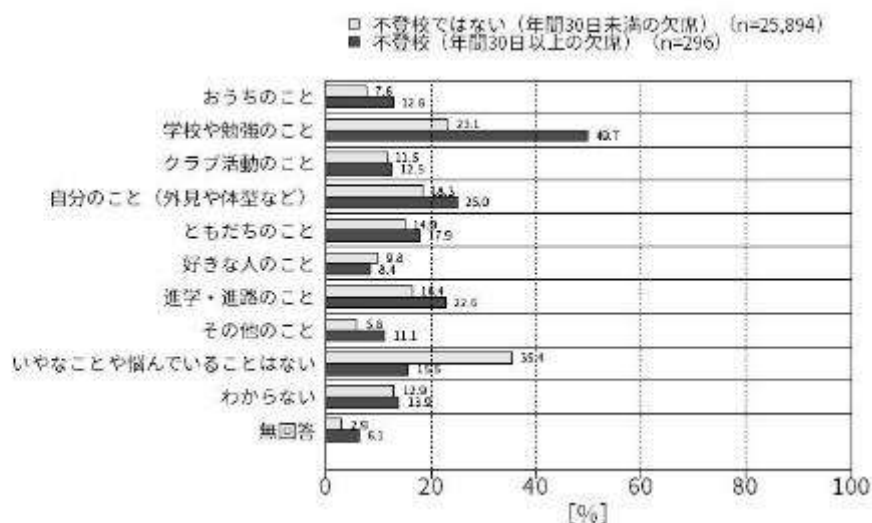


<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

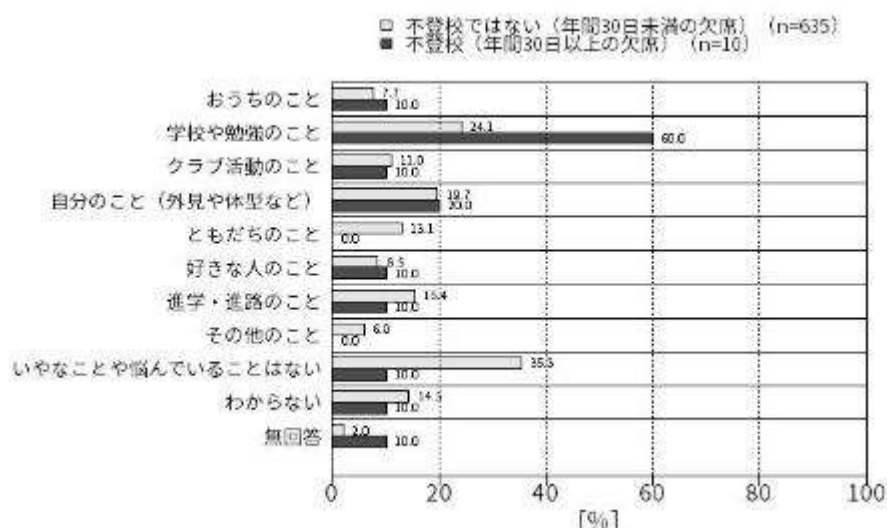


図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

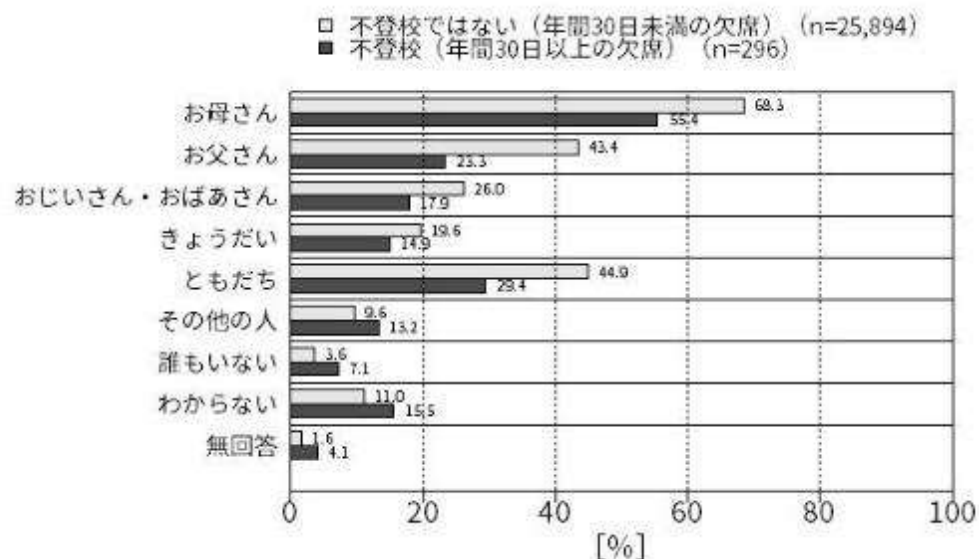
ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.5 倍、「おうちのこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.3 倍、「好きな人のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.2 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 35.3%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

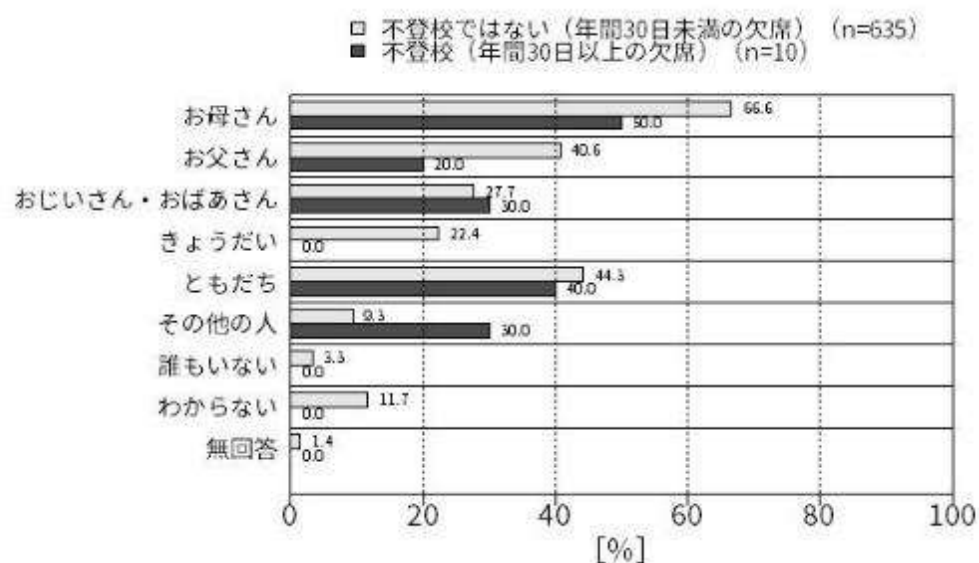
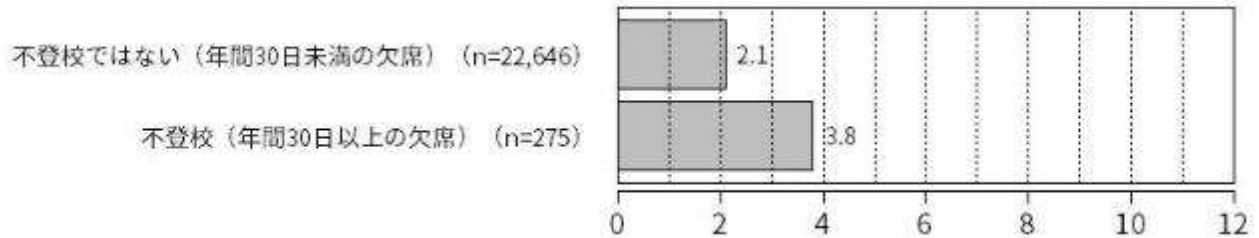


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合を見ると、いずれも「お母さん」が高かった。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

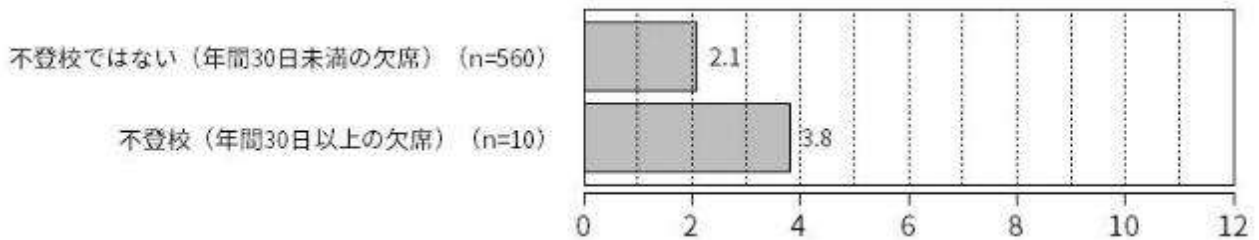


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

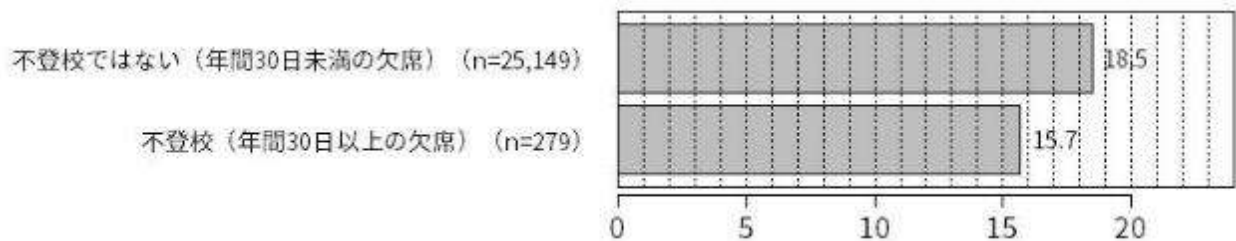
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均 3.8 個であり、「不登校ではない」子どもの約 1.8 倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

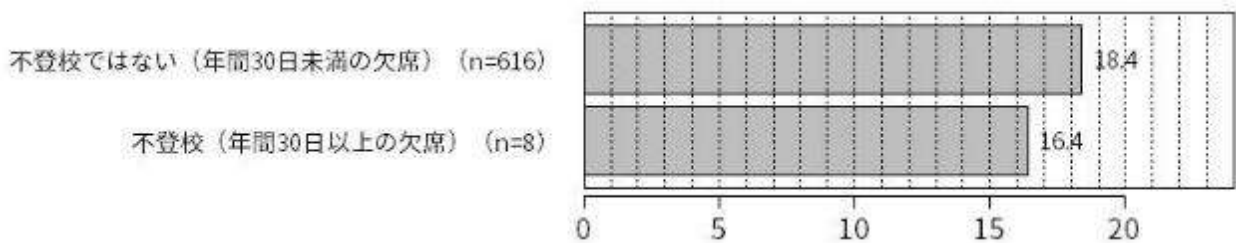
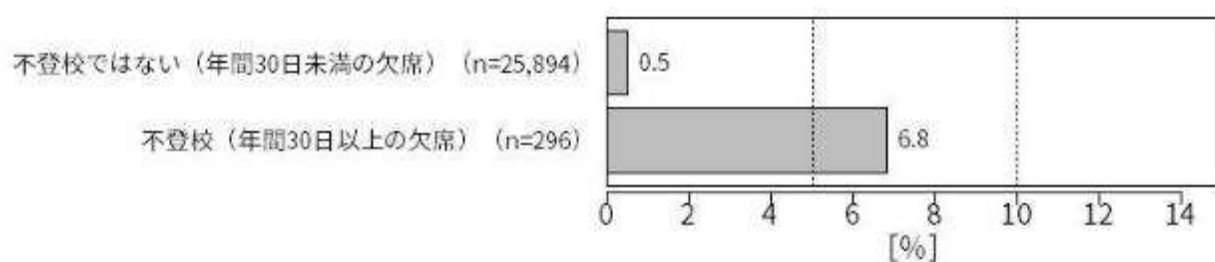


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 16.4 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 2 点低い。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

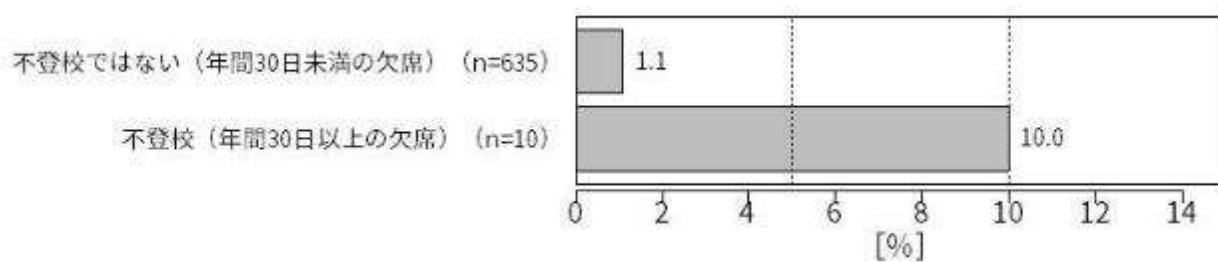
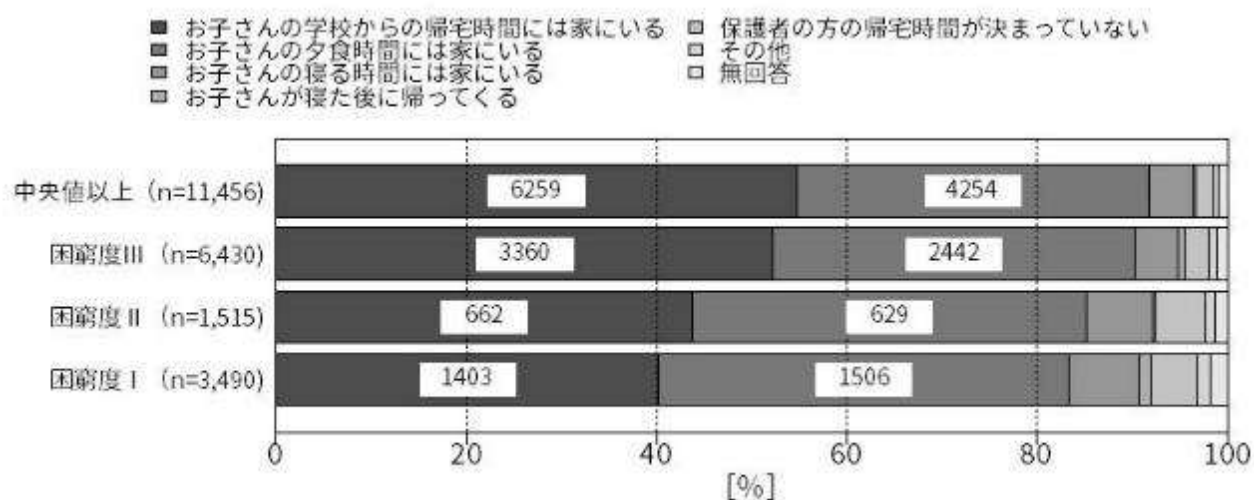


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもがスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、「不登校」では 10.0%であり、「不登校でない」子どもの 9.1 倍である。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問 10）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

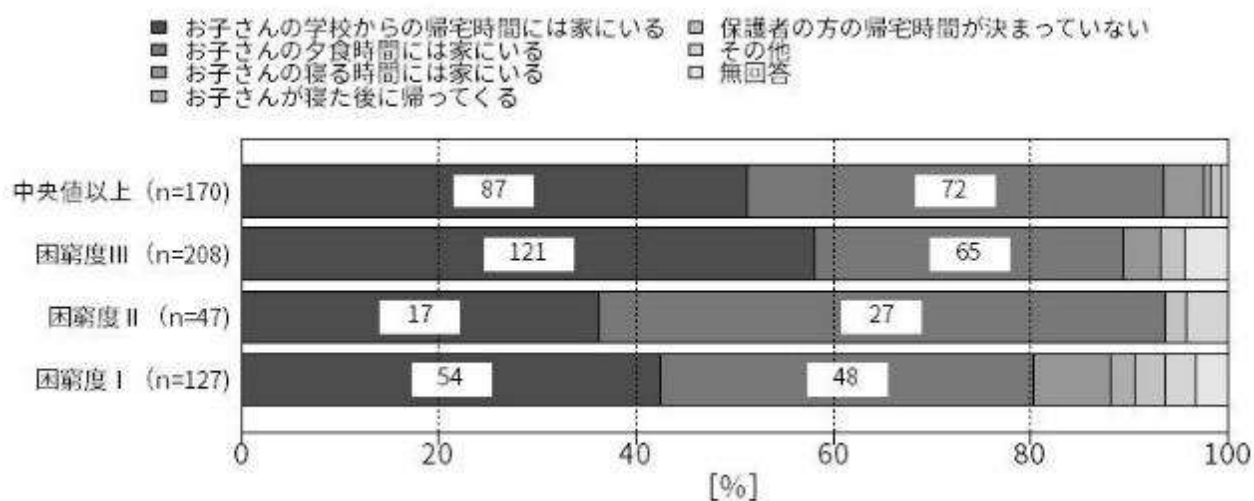
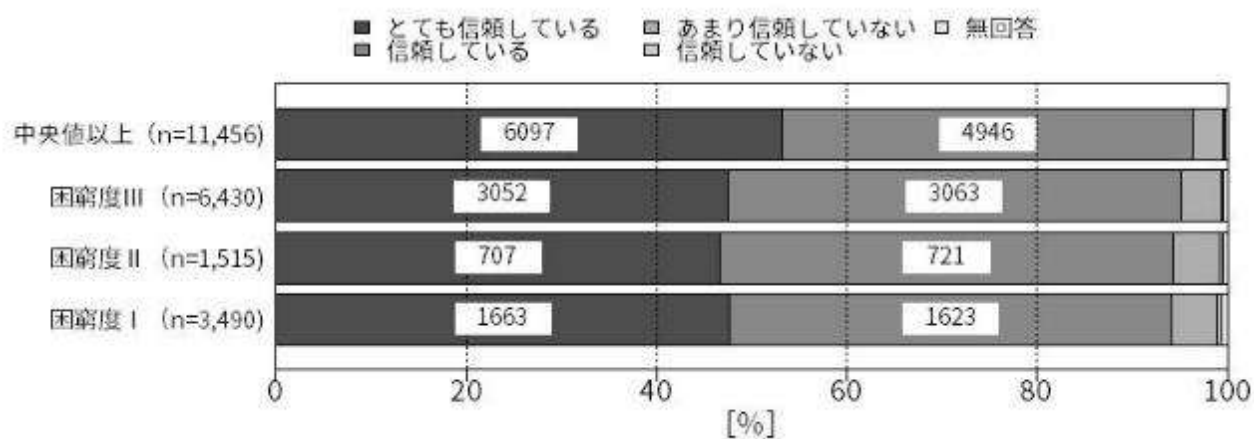


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの寝る時間には家にいる」と回答した割合が高く、7.9%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

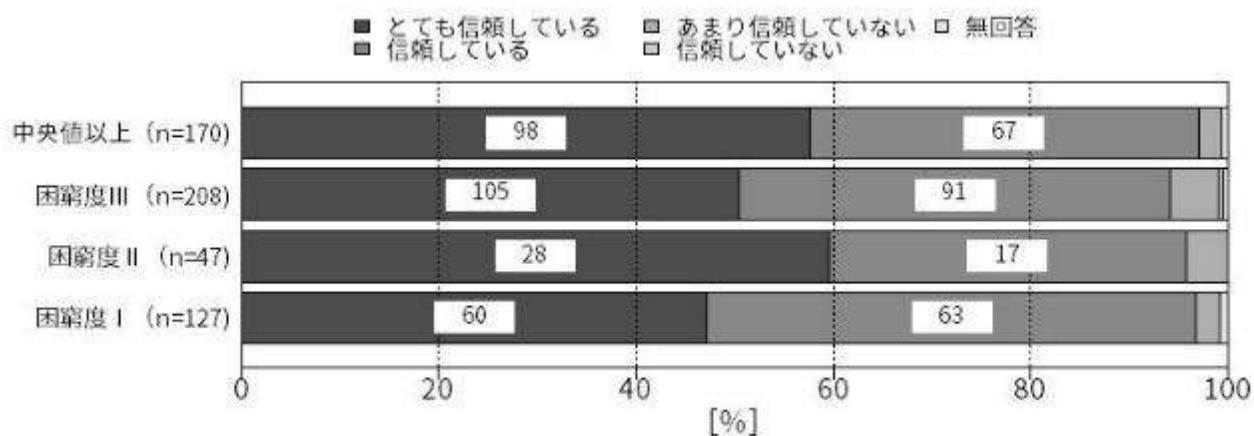
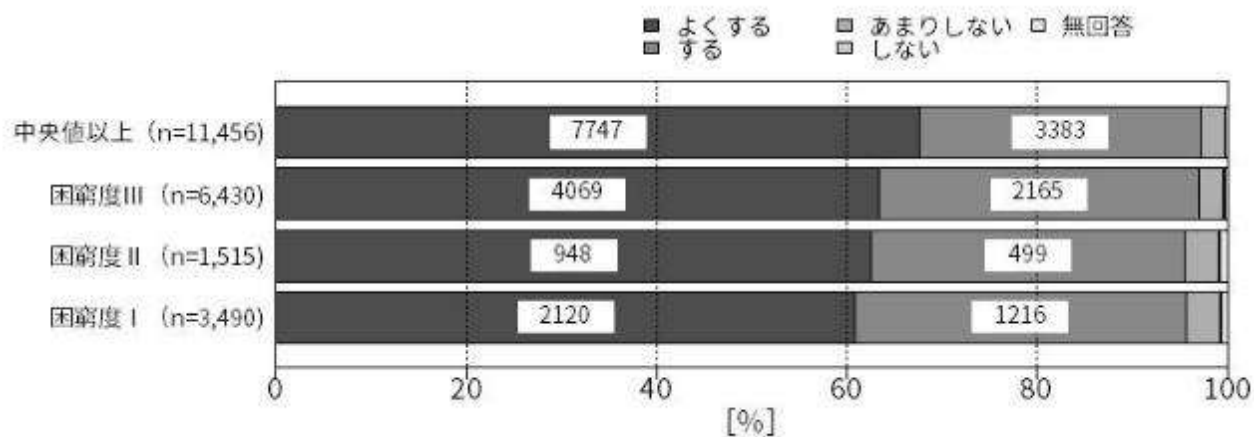


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 57.6%、困窮度Ⅰ群では 47.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

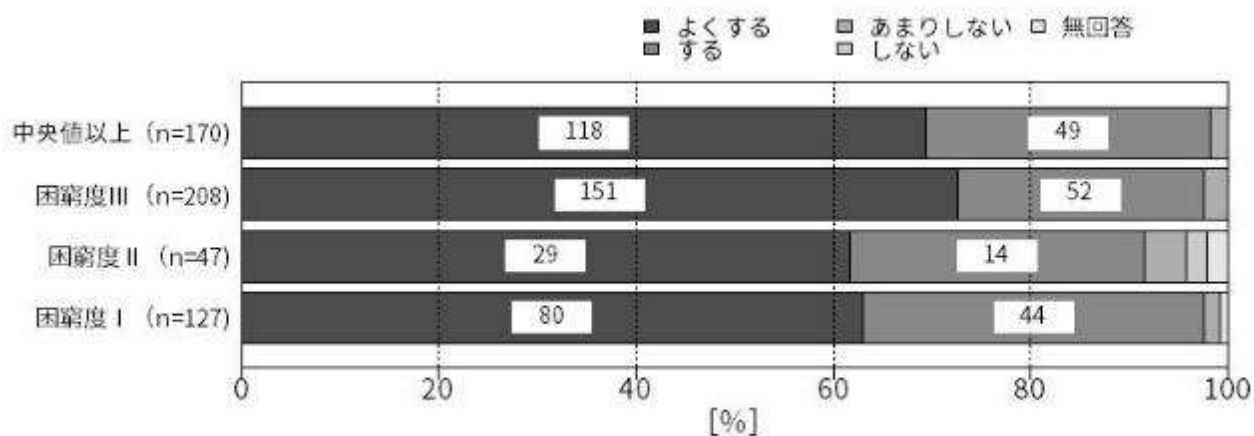
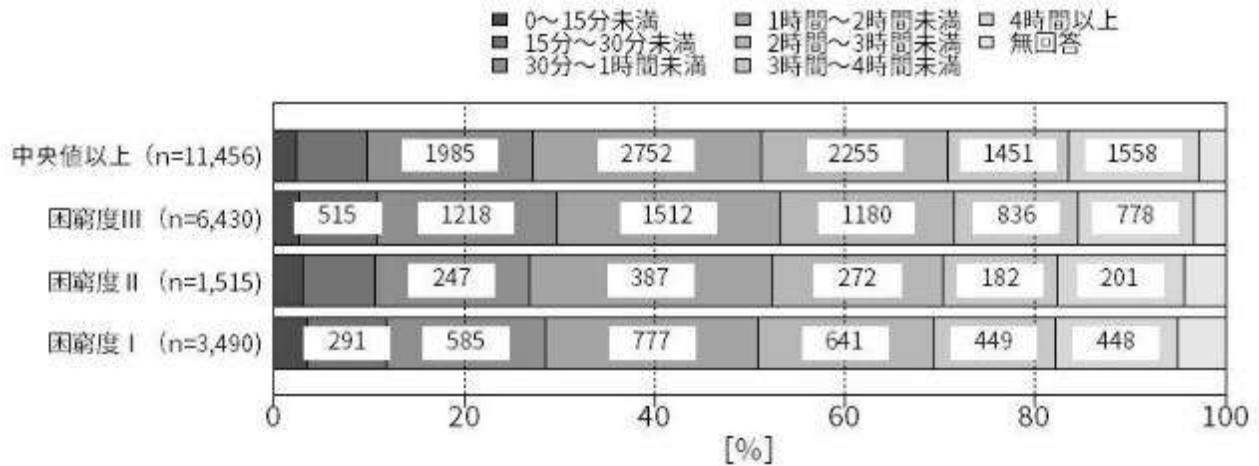


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 69.4%、困窮度Ⅰ群では 63.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

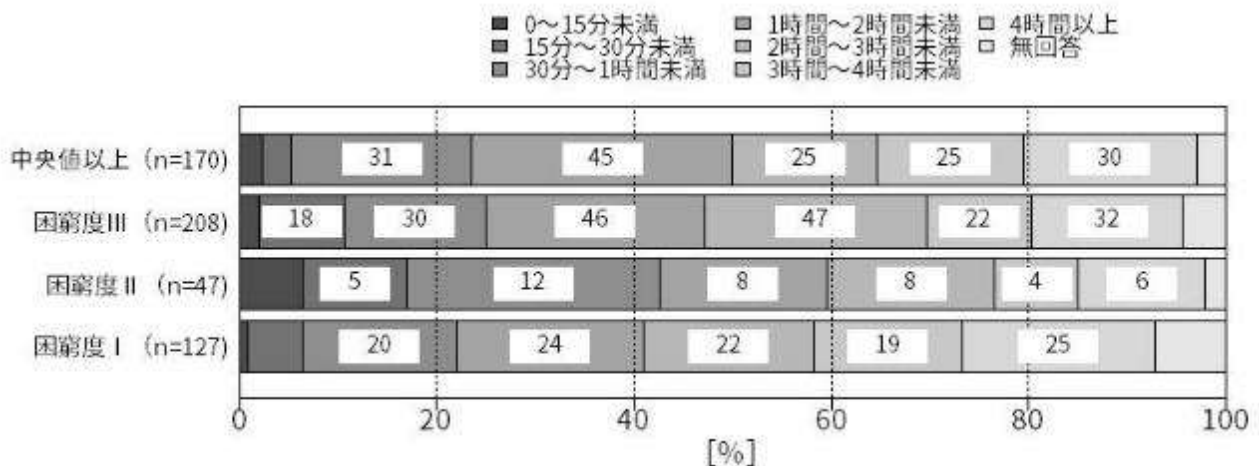
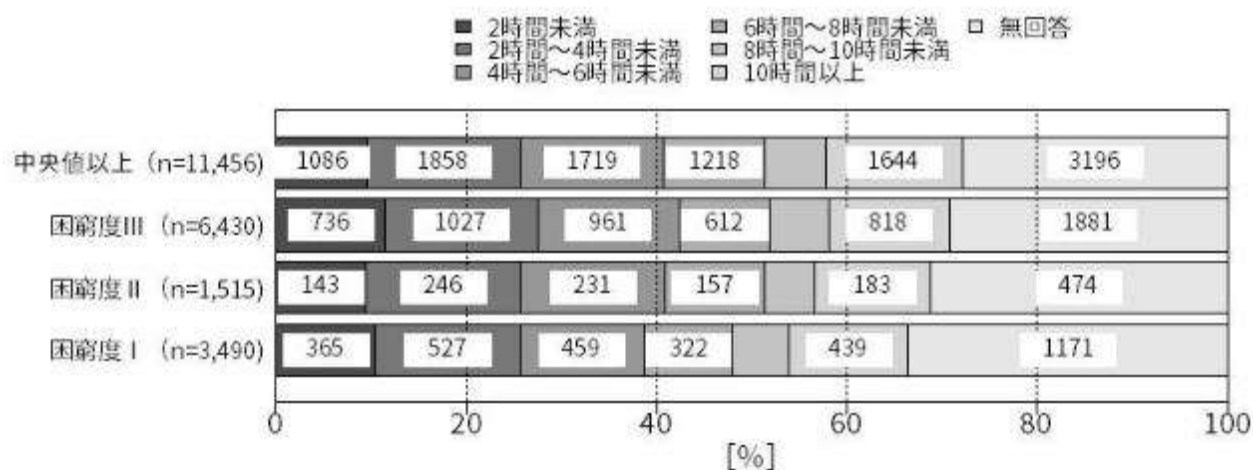


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、「4 時間以上」と回答した割合は中央値以上群で 17.6%、困窮度Ⅲ群で 15.4%、困窮度Ⅱ群で 12.8%、困窮度Ⅰ群で 19.7%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

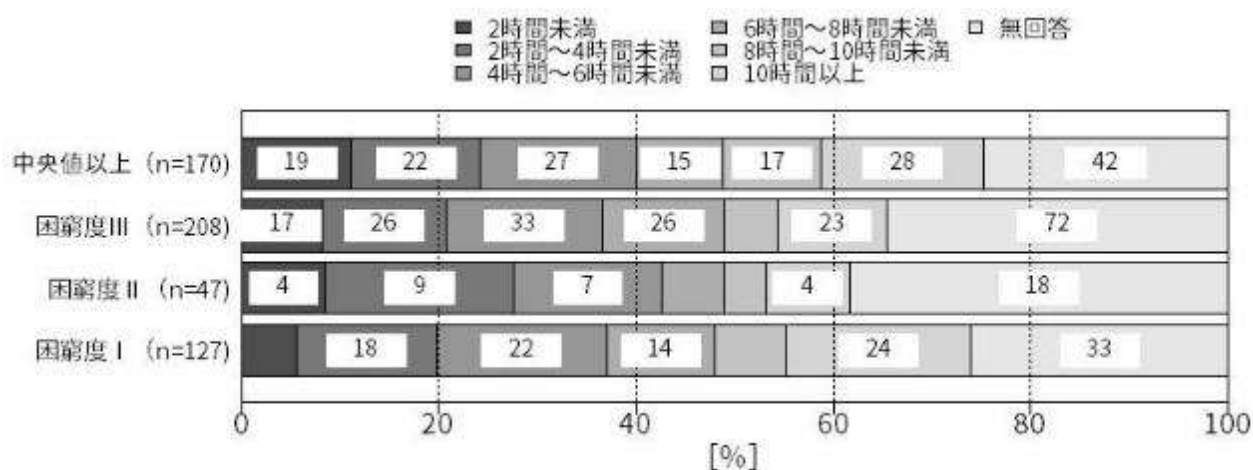
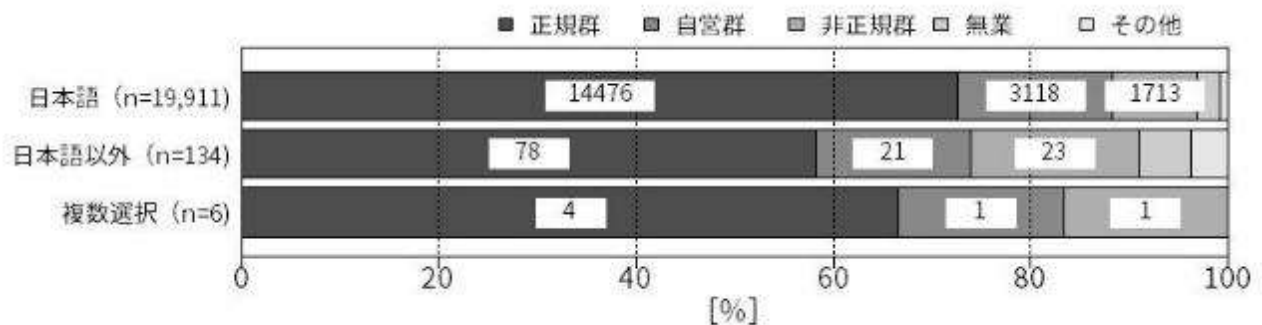


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「10時間以上」と回答した割合は中央値以上群で 16.5%、困窮度Ⅲ群で 11.1%、困窮度Ⅱ群で 8.5%、困窮度Ⅰ群で 18.9%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
(保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

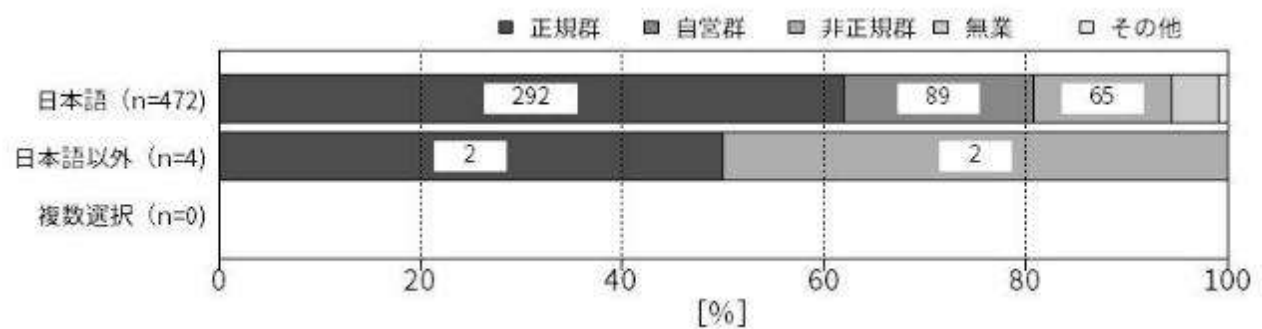
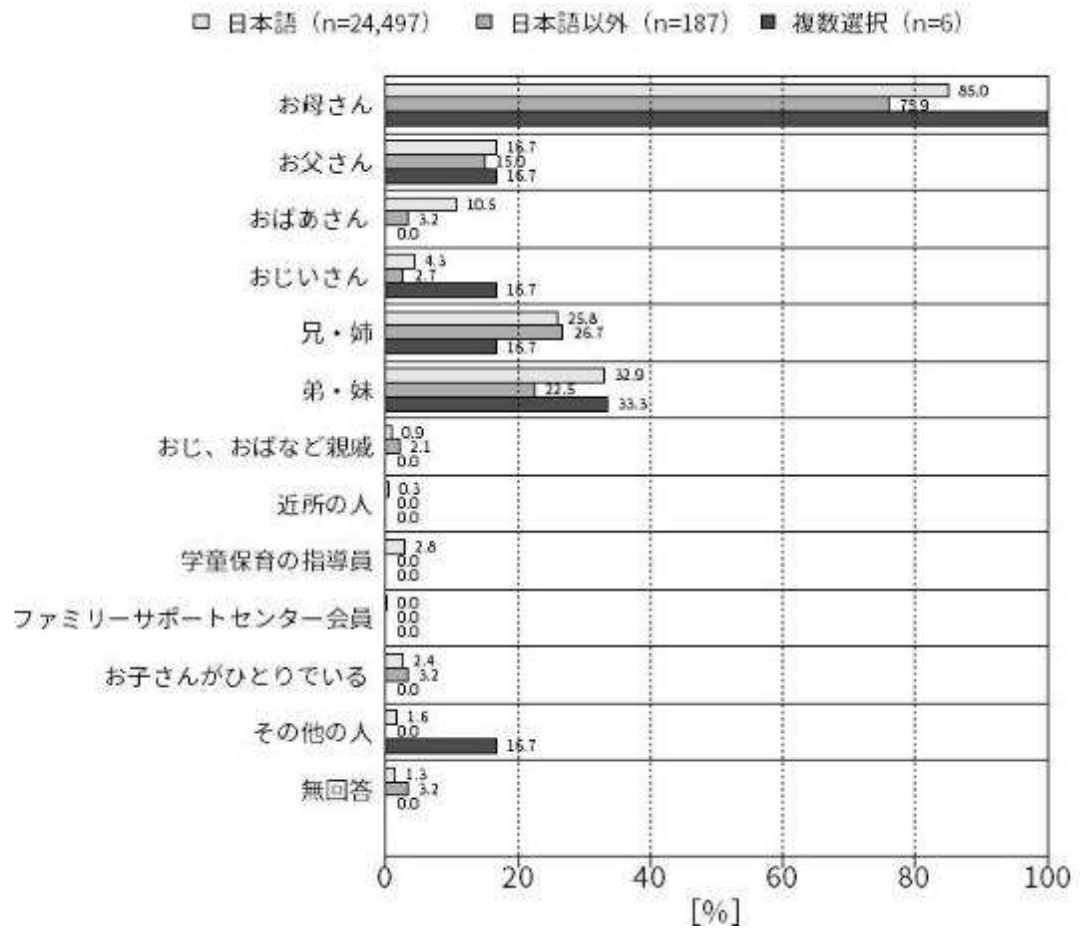


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

就労状況について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、就労状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合は非正規群は13.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人
 (保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

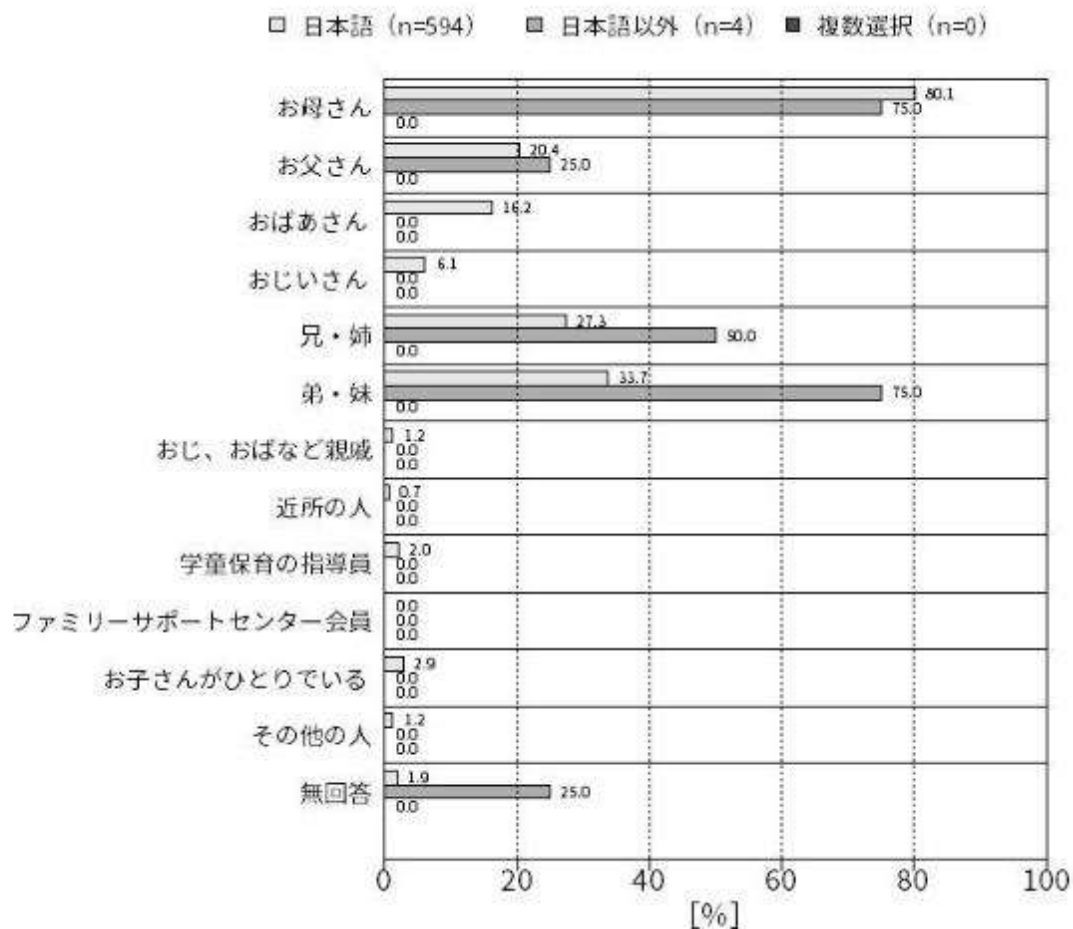
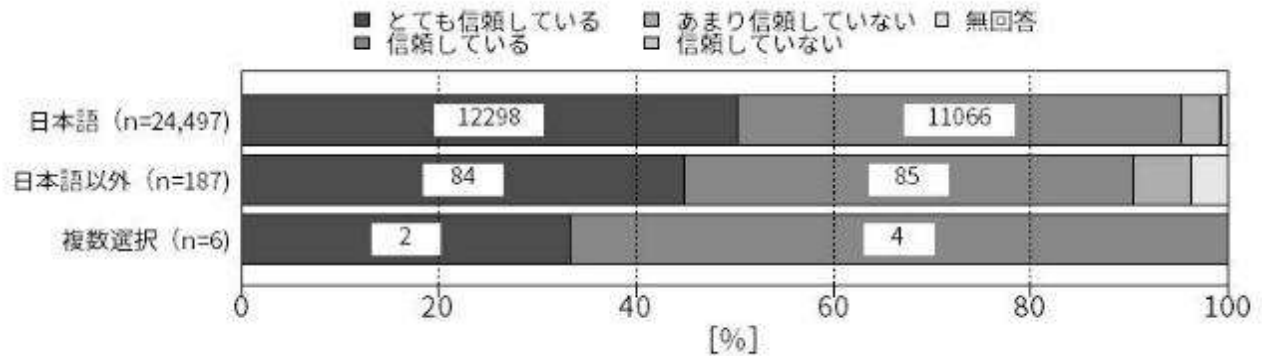


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

子どもと過ごす時間が長い人について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、子どもと過ごす時間が長い人について述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

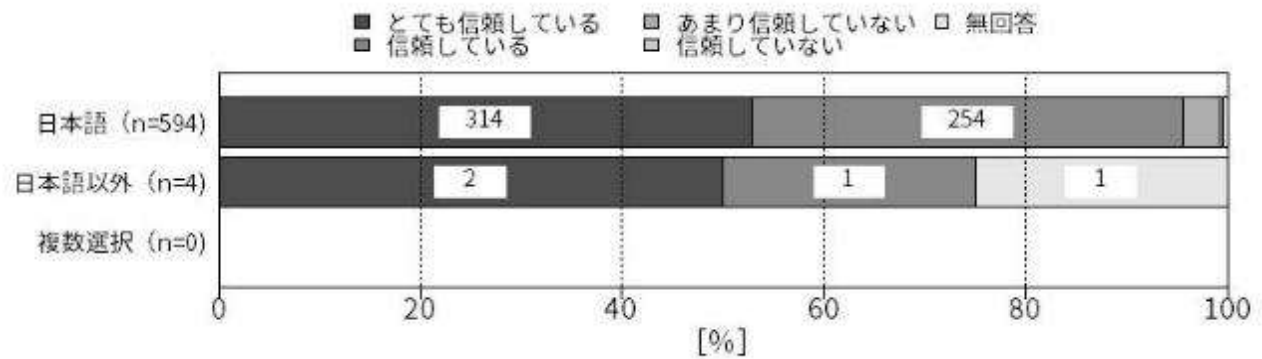
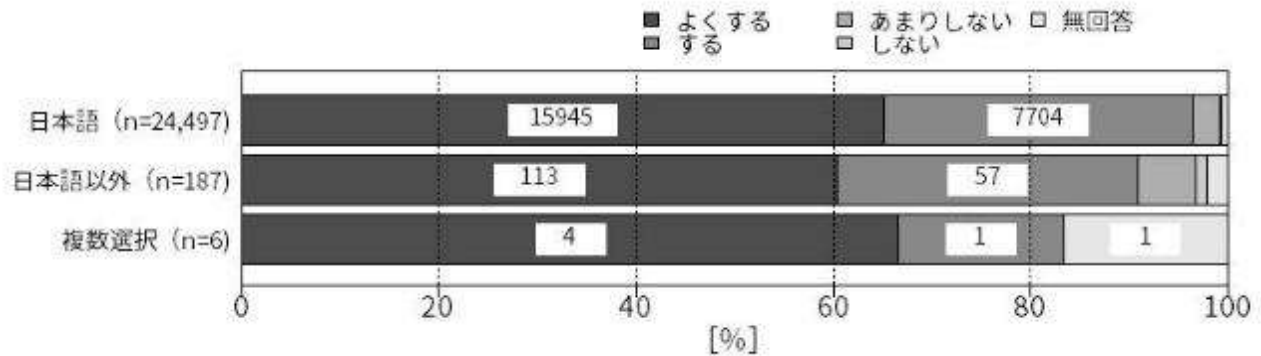


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度) について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度) について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもを「とても信頼している」と回答した割合が52.95%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

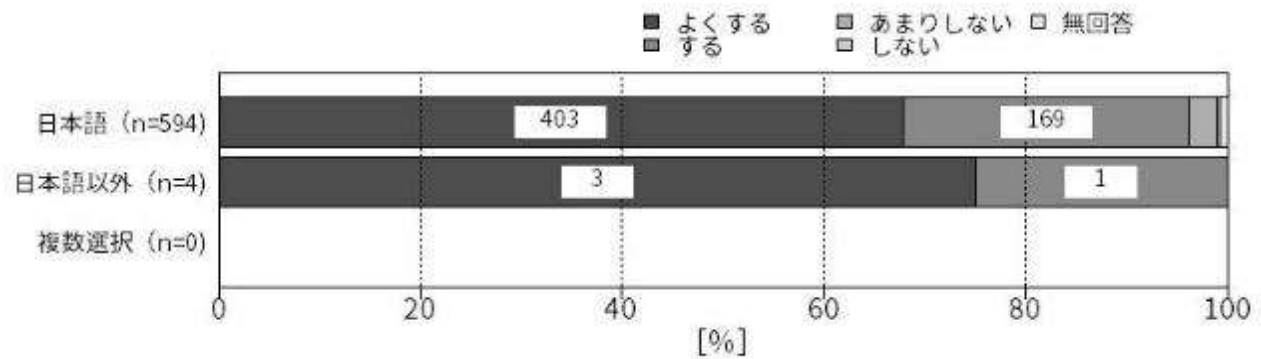


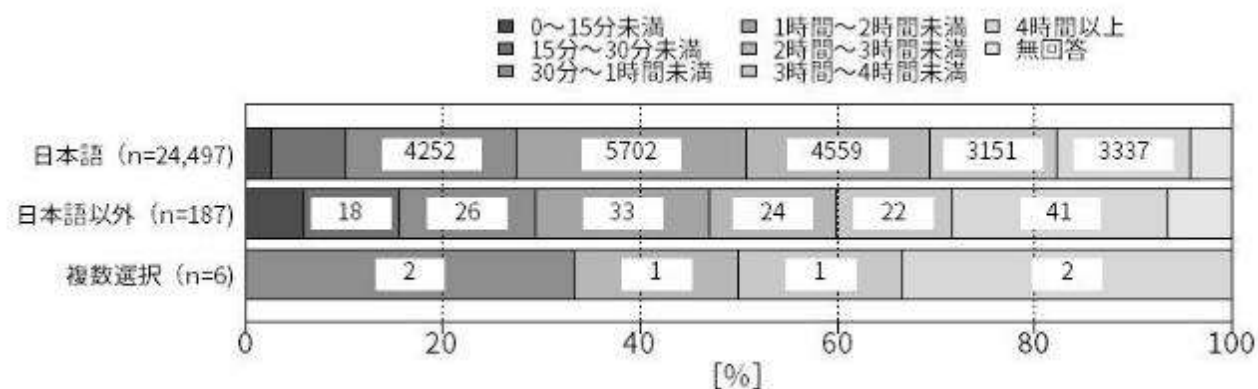
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

保護者と子どもの関わり (子どもと会話) について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、保護者と子どもの関わり (子どもと会話) について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもと会話を「よくする」と回答した割合が67.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

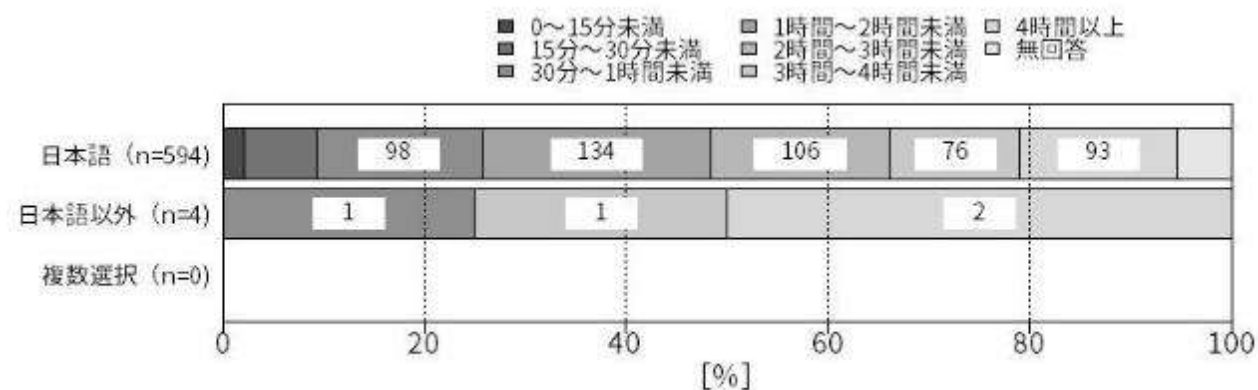


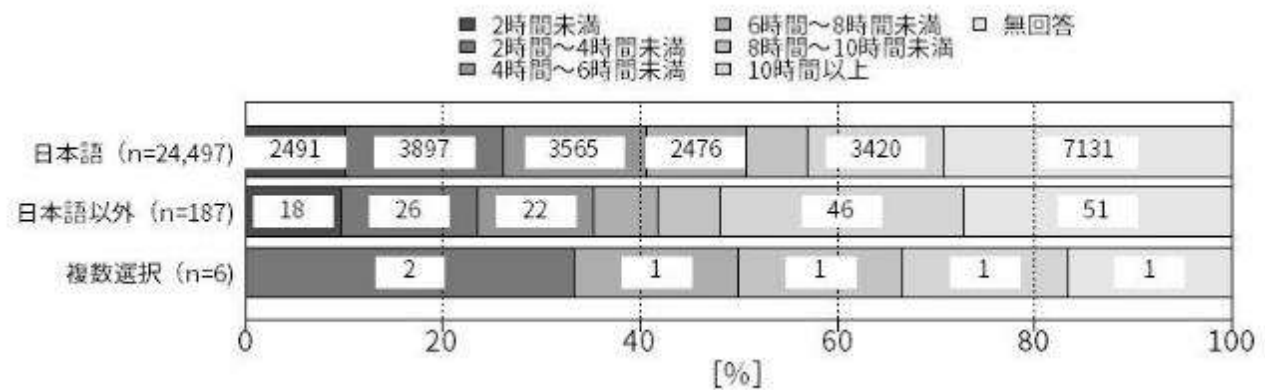
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(平日))

保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(平日))について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(平日))について述べることはできない。日本語を母語とする場合、平日に子どもと一緒にいる時間が「4時間以上」と回答した割合が15.7%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(休日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

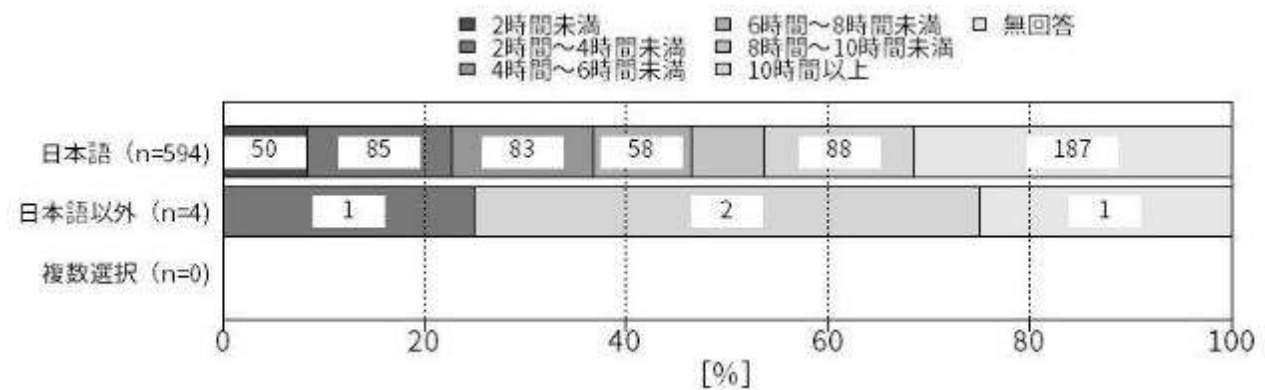
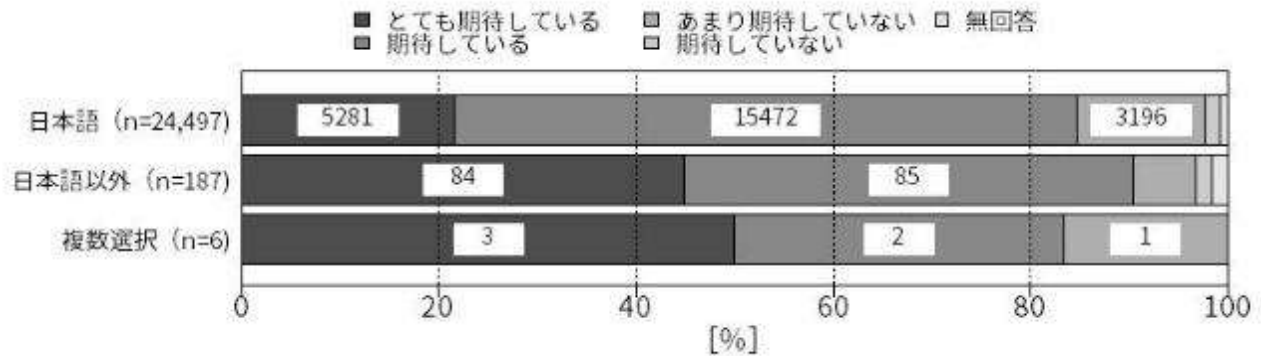


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(休日))

保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(休日))について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(休日))について述べることはできない。日本語を母語とする場合、休日に子どもと一緒にいる時間が「10時間以上」と回答した割合が14.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票 問 2 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

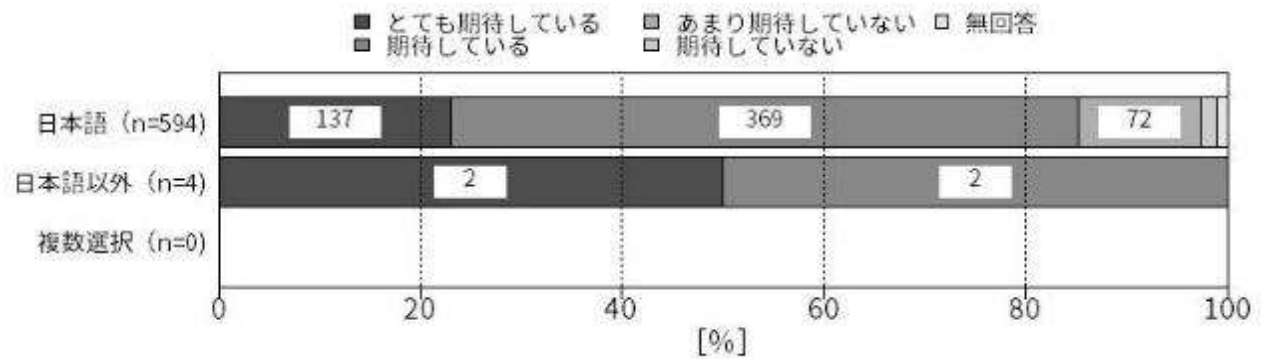
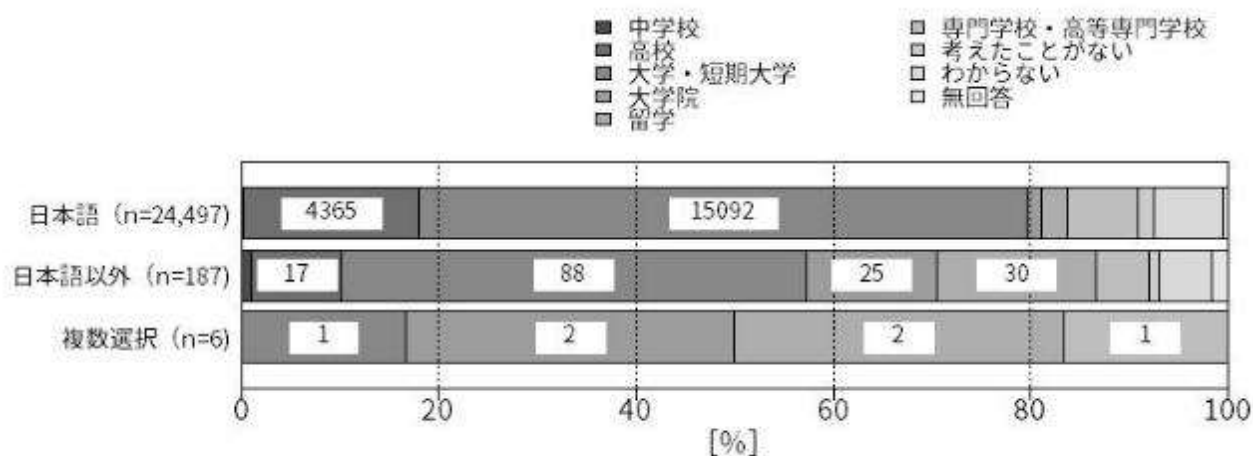


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもへの将来の期待）

保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）について、日本語を母語としない場合は 4 人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 23.1%であった。

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

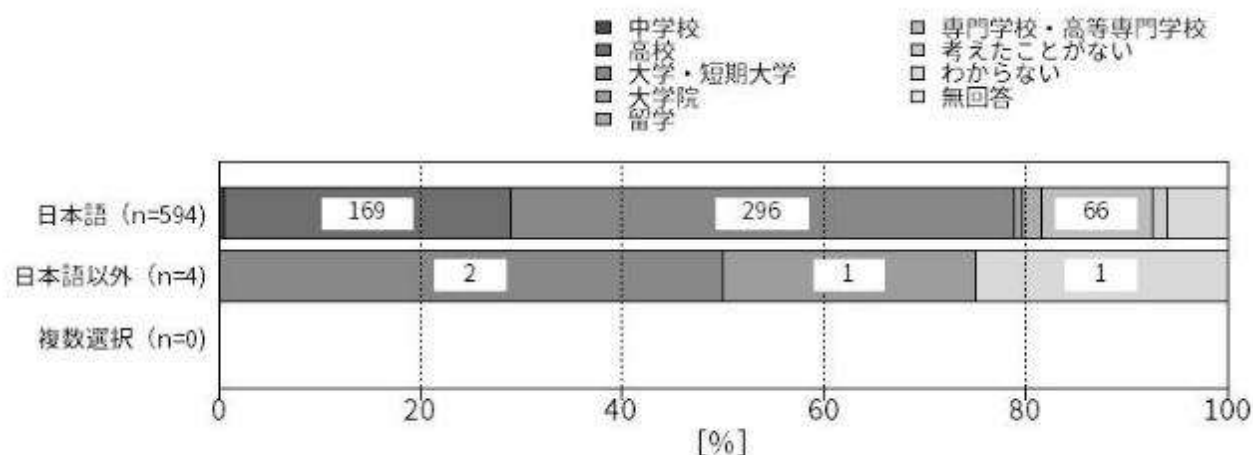


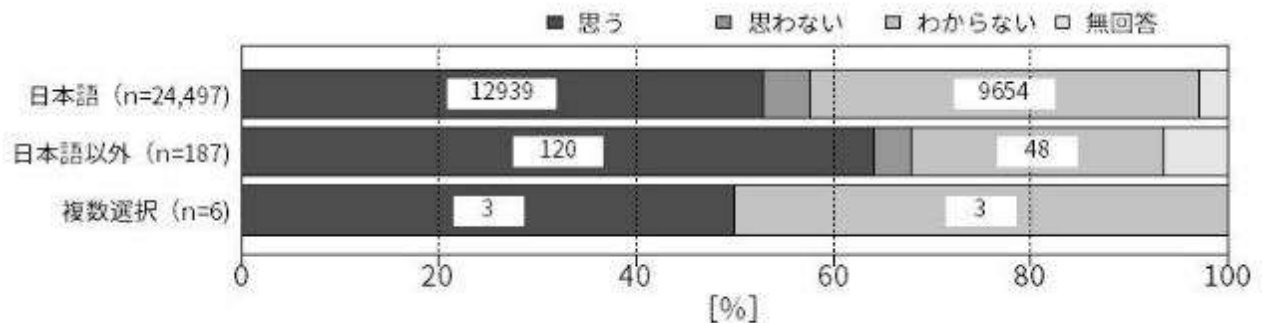
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

希望する進学先について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、希望する進学先について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもの進学について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が28.5%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

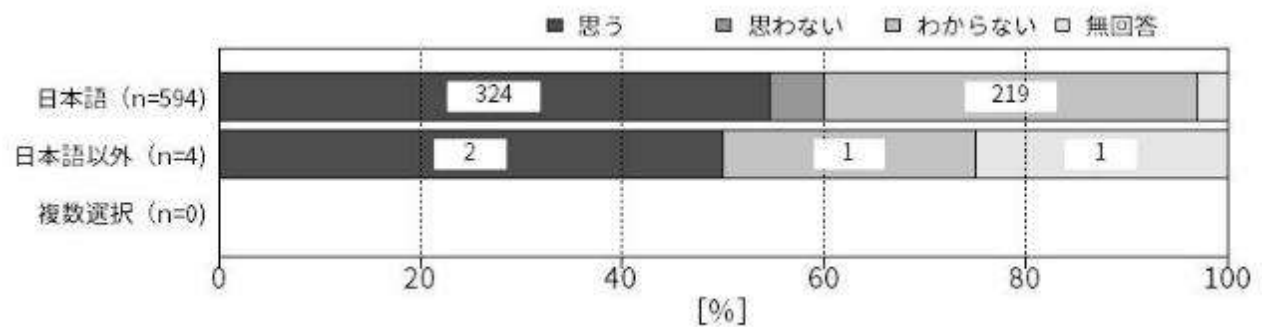
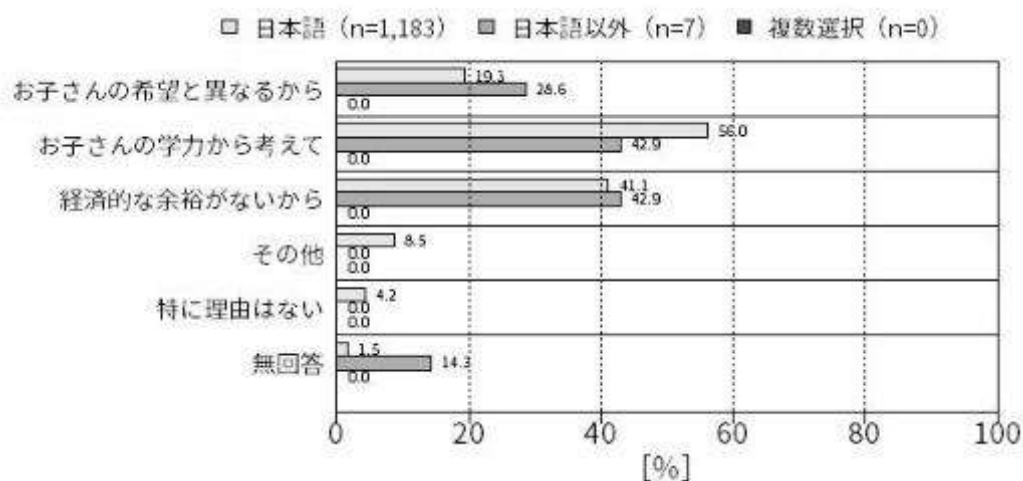


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

子どもの進学達成予測について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、子どもの進学達成予測について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと「思う」と回答した割合が54.5%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
(保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

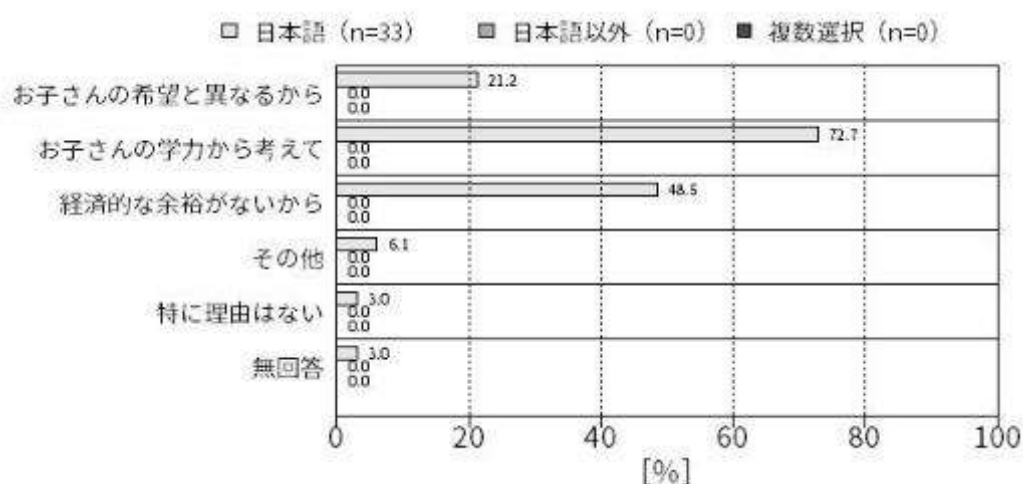
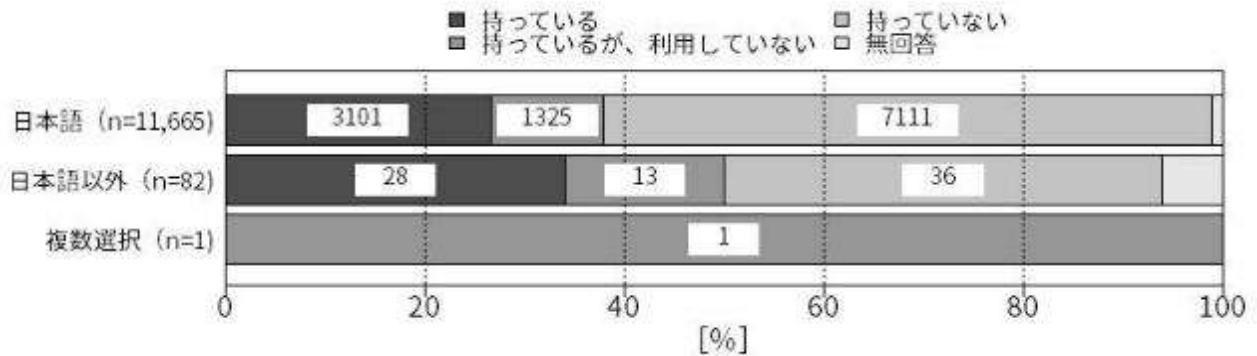


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

子どもの進学達成「思わない」理由について、日本語を母語とする場合しか該当者がいなかった。日常生活でよく使う言葉別に、子どもの進学達成「思わない」理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと思わないと回答した理由として、「お子さんの学力から考えて」が72.7%と最も多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
(保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

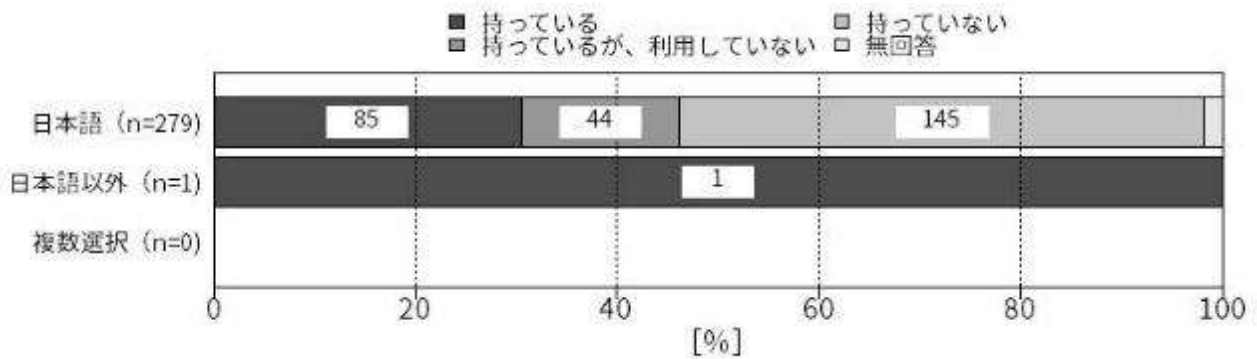
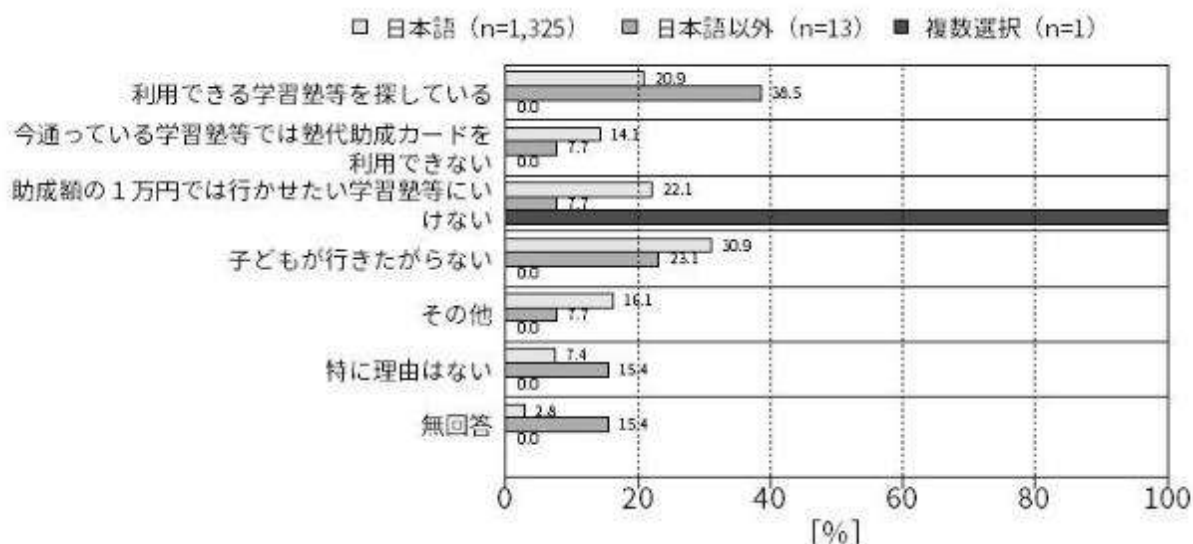


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

塾代助成カードの所持状況について、日本語を母語としない場合は1人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、塾代助成カードの所持状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを「持っている」と回答した割合が30.5%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
(保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

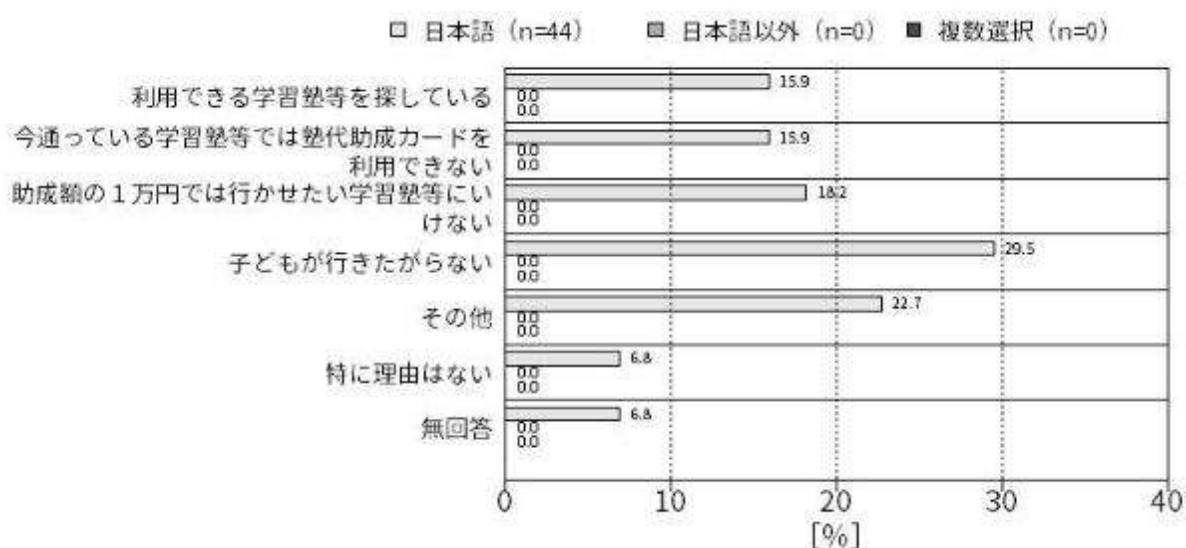
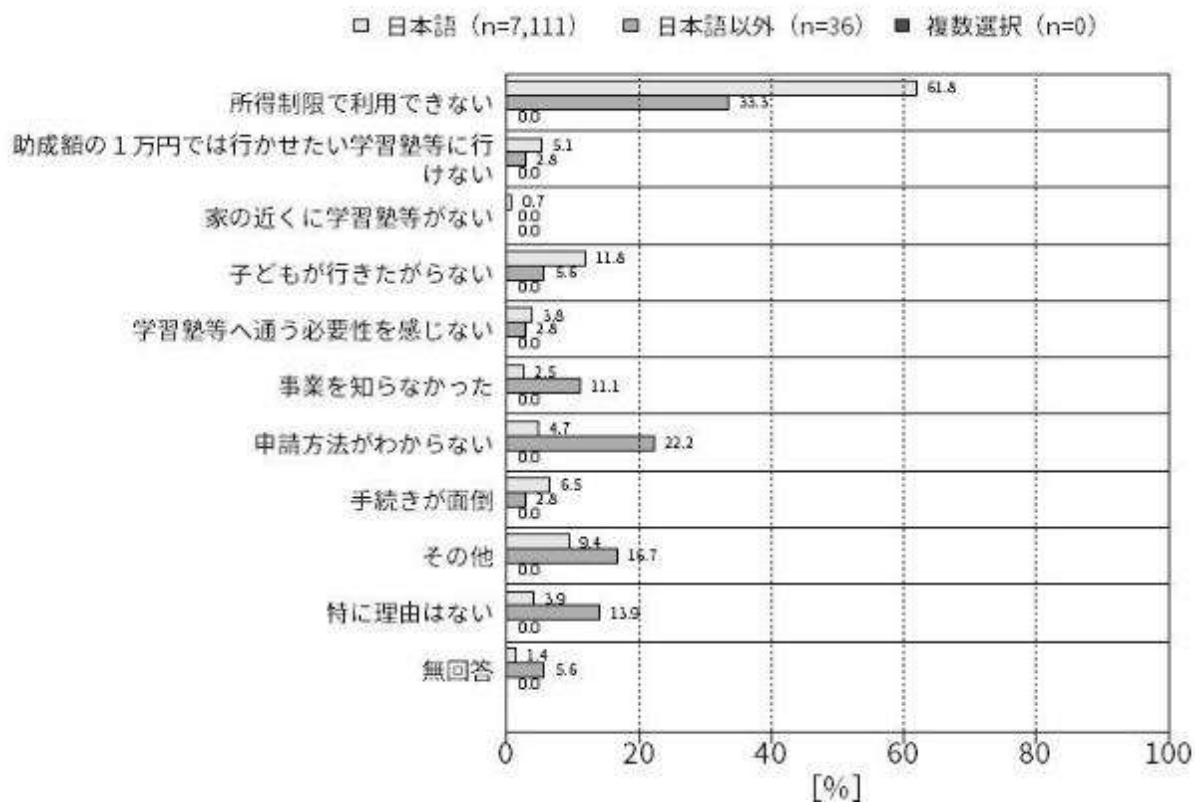


図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

塾代助成カードを持っているが利用していない理由について、日本語を母語とする場合しか該当者がいなかった。日常生活でよく使う言葉別に、塾代助成カードを持っているが利用していない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っているが利用していない理由として、「子どもが行きたがらない」が29.5%と最も多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

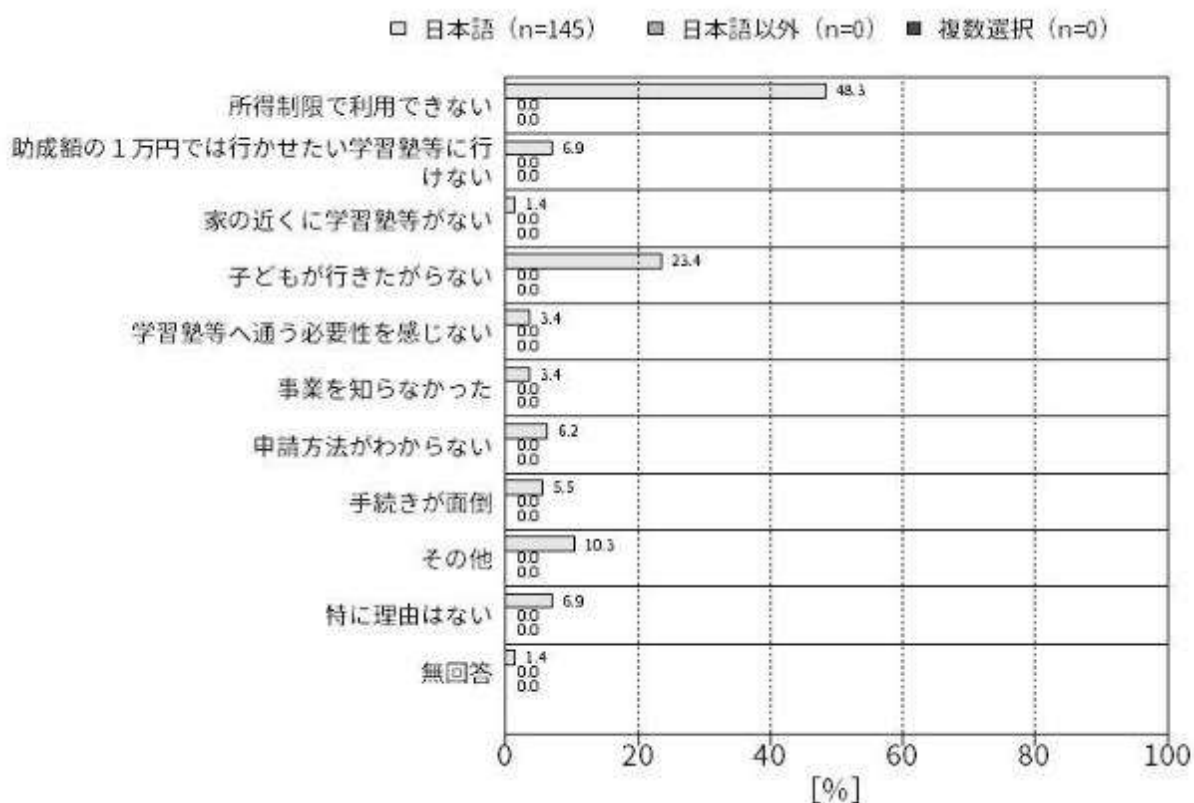


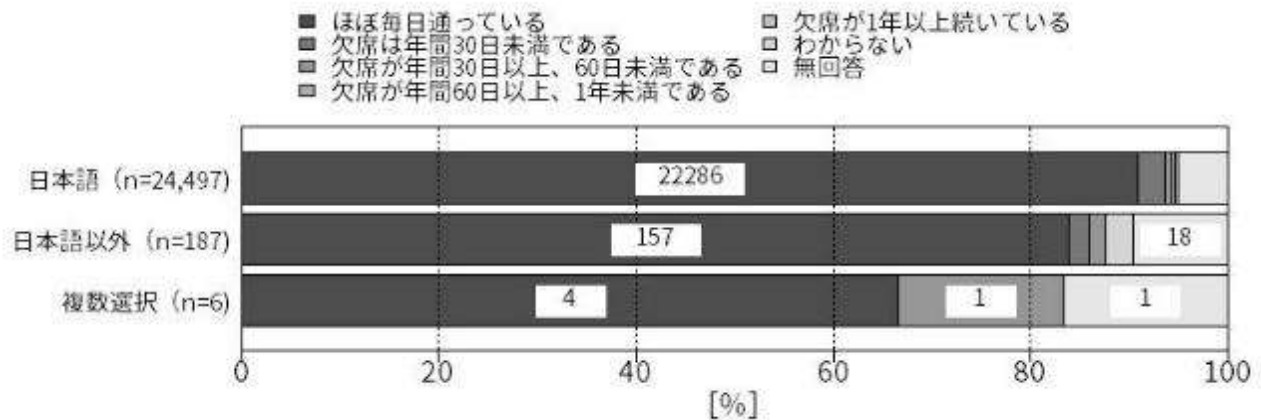
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

塾代助成カードを持っていない理由について、日本語を母語とする場合しか該当者がいなかった。日常生活でよく使う言葉別に、塾代助成カードを持っていない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っていない理由として、「所得制限で利用できない」が48.3%と最も多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

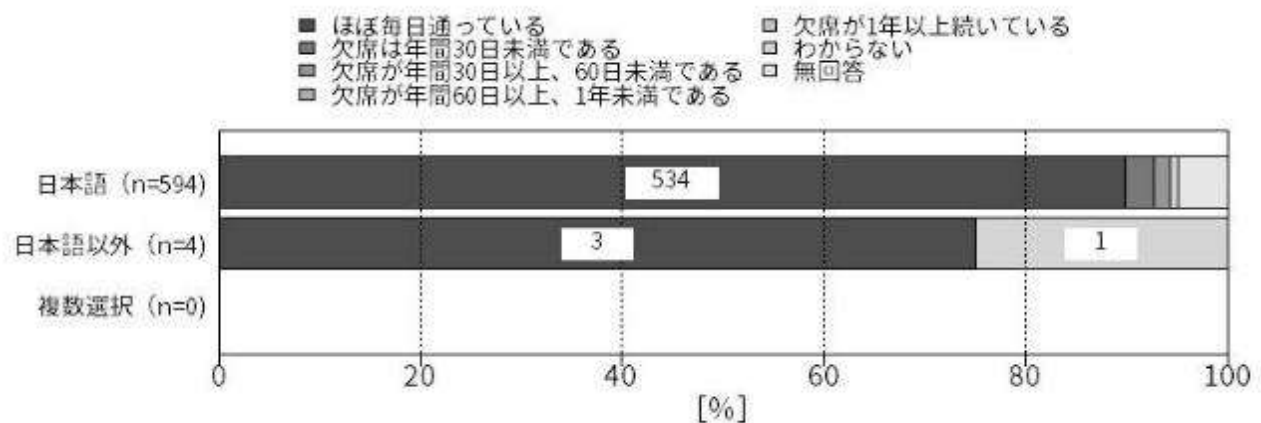


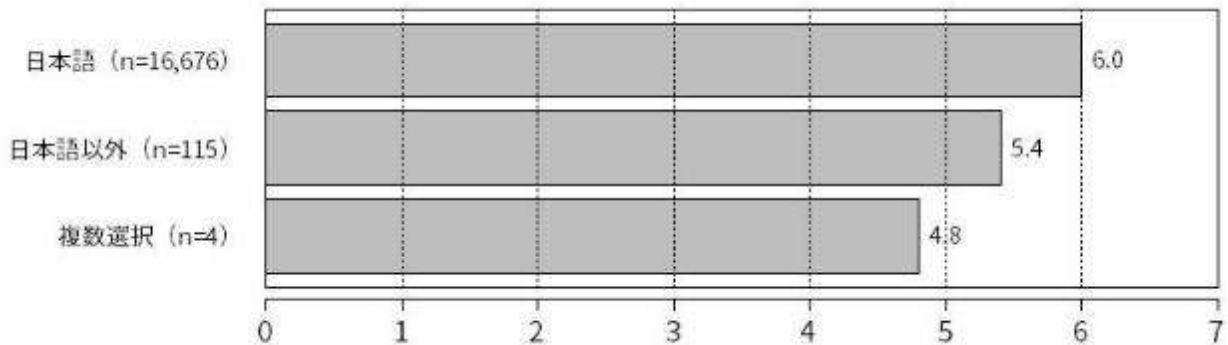
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

子どもの通学状況について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、子どもの通学状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合は89.9%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
(保護者票 問 2 × 保護者票 問 23①～⑦)

※「支えてくれる人得点」については図 198 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

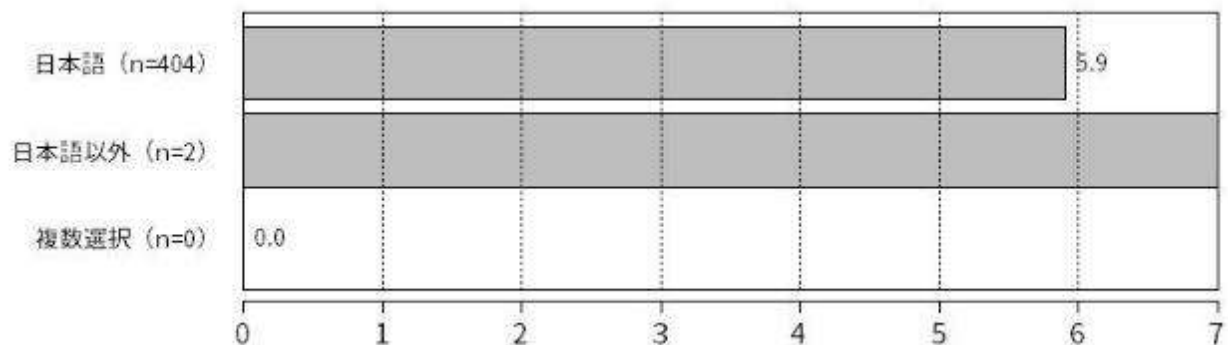


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

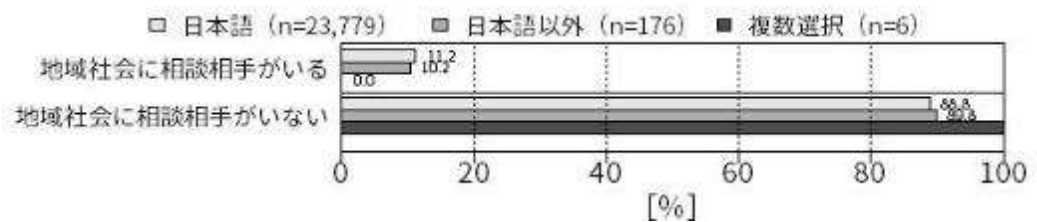
支えてくれる人について、日本語を母語としない場合は 2 人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、支えてくれる人について述べることはできない。日本語を母語とする場合は、「支えてくれる人」の平均値が 5.9 点であった。(問 20 おうちの方を含め「支えてくれる、手伝ってくれる人」の具体的な内訳は、①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人、②あなたの気持ちを察して思いやってくれる人、③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換してくれる人、④子どものとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人、⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人(運動や文化活動)、⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人、⑦留守を頼める人である。)

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市西成区>



図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

地域社会における相談相手の有無について、日本語を母語としない場合は4人しかいなかった。日本語を母語としない場合では、地域社会における相談相手の有無について述べることはできない。日本語を母語とする場合は、「地域社会に相談相手がいない」割合は90.1%であった。

<家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったく」「ほとんどない」合わせると35.4%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度は下がり、前者の宿題を見てもらわない子どもが39.4%（大阪市全体35.9%）、後者文化活動をともに行うことはまったくない子どもが40.9%（大阪市全体40.0%）、ほとんどないと合わせると74.8%（大阪市全体：78.1%）を占め、中央値以上と0.7ポイントほどの差がある（大阪市全体は7ポイントほど）。

勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、30分以内と少なくなり、読書時間も同様の傾向で、困窮度Ⅰ群では全くしない人は32.3%（大阪市全体：37.6%）を占める。これらの結果として学習理解度は、困窮度Ⅰ群では、ほとんどわからない・あまりわからない人が18.1%（大阪市全体：23.4%）になる。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくしない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群では、11.8%（大阪市全体：17.9%）の保護者があまり期待していない。進学に関して、子ども自身の希望と親の希望では、困窮度が高まるにつれ、「中学校」「高校」と回答した子どもが増え、困窮度Ⅰ群では、その値が26.0%（大阪市全体：25.4%）、保護者が40.9%（大阪市全体：33.5%）となる。つまり、子ども自身が希望は高校卒業までではないが、保護者はそこまでと思っているずれが大きい。保護者も困窮度が高まるにつれ、子どもの進学達成をあきらめていると読めるが、その理由については数が少数すぎて明確に言及できない。

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、24.4%（大阪市全体：18.4%）である。困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度Ⅰ群では「ほぼ毎日通っている」が87.4%（大阪市全体：88.1%）、週1回以上遅刻する子どもは、おうちの大人と朝食をほとんど毎日とっているのが31.8%（大阪市全体：39.7%）、夕食で71.3%（大阪市全体：75.2%）であり、社会のできごとを話すこと、文化活動をする、などが、遅刻をしない子どもと比べて、低くなっている。

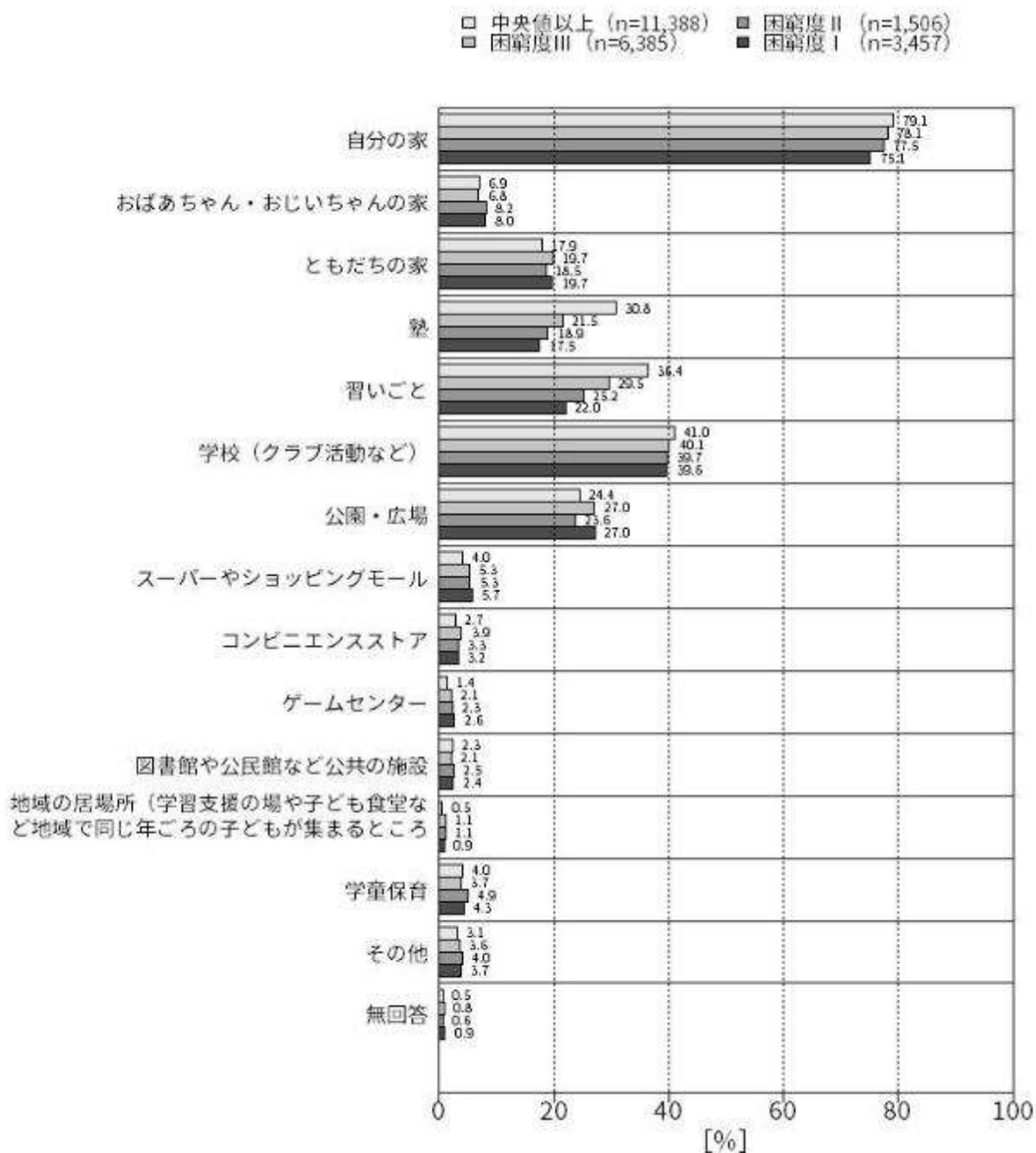
週1回以上遅刻する子どもは進学希望が「中学校」「高校」の割合が高く28.7%（大阪市全体：22.3%）、遅刻はしない子どもは、「大学・短期大学」が37.2%（大阪市全体：39.8%）であった。

本区は、中央値以上と困窮度Ⅰの間の差が、大阪市全体に比較して少ない傾向にあるといえよう。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



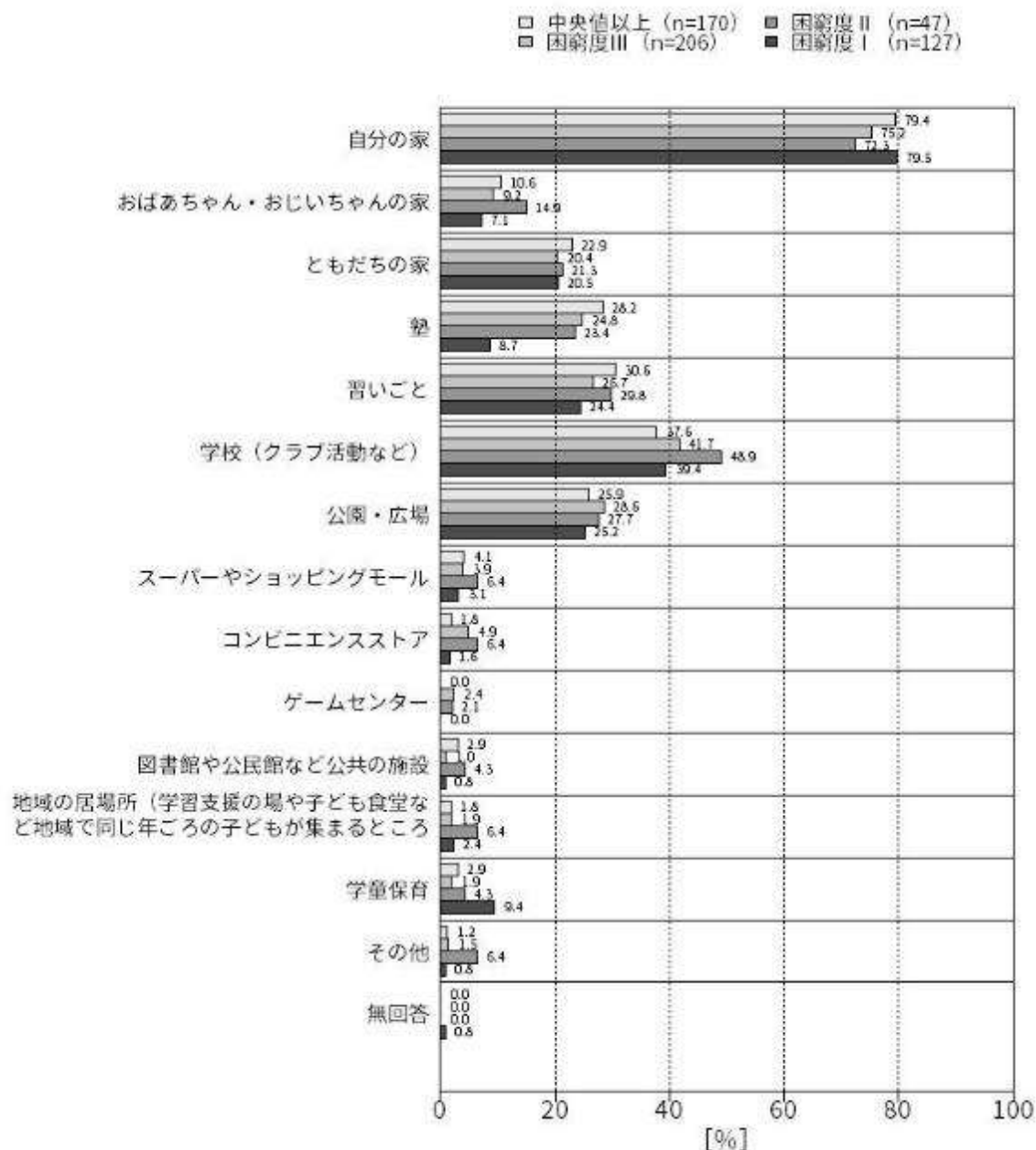
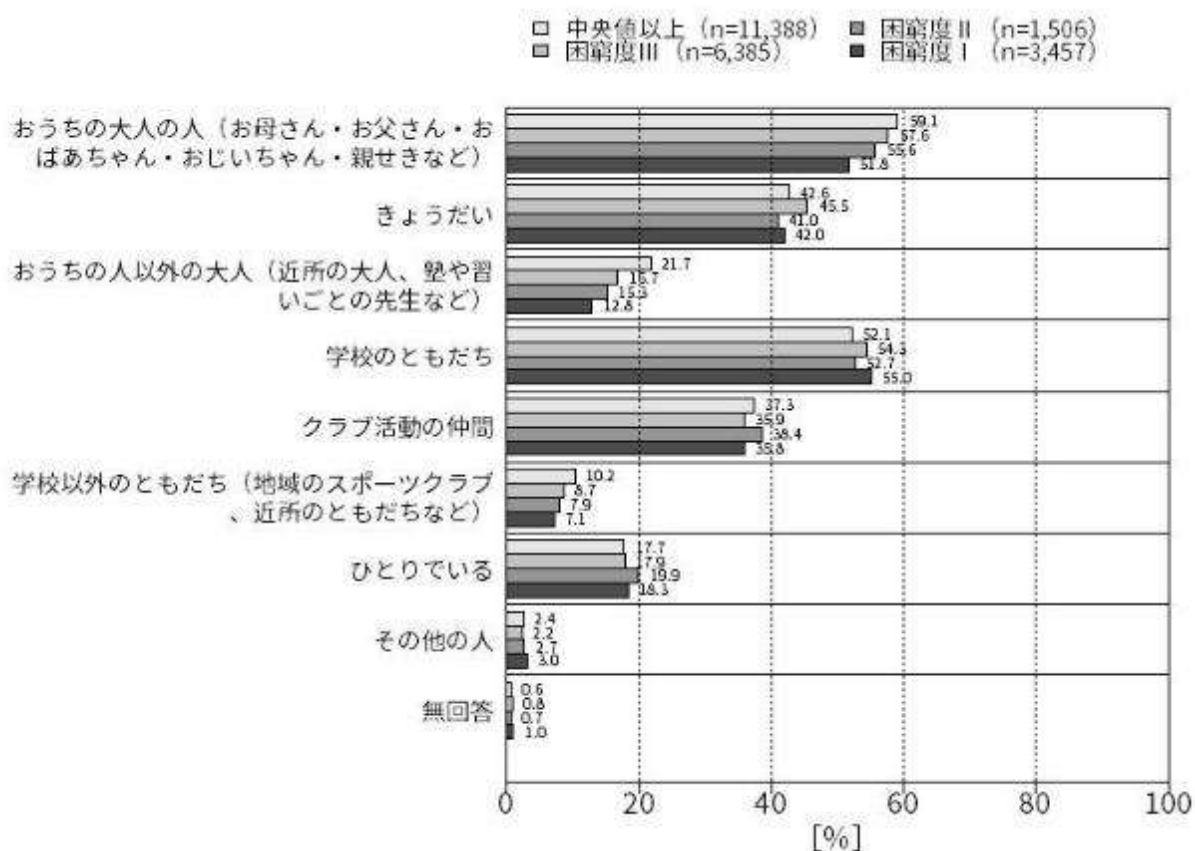


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育」9.4%（中央値以上群に対して、3.2倍）、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）」2.4%（1.3倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「図書館や公民館など公共の施設」2.9%（困窮度Ⅰ群に対して、3.6倍）、「塾」28.2%（3.2倍）、「その他」1.2%（1.5倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



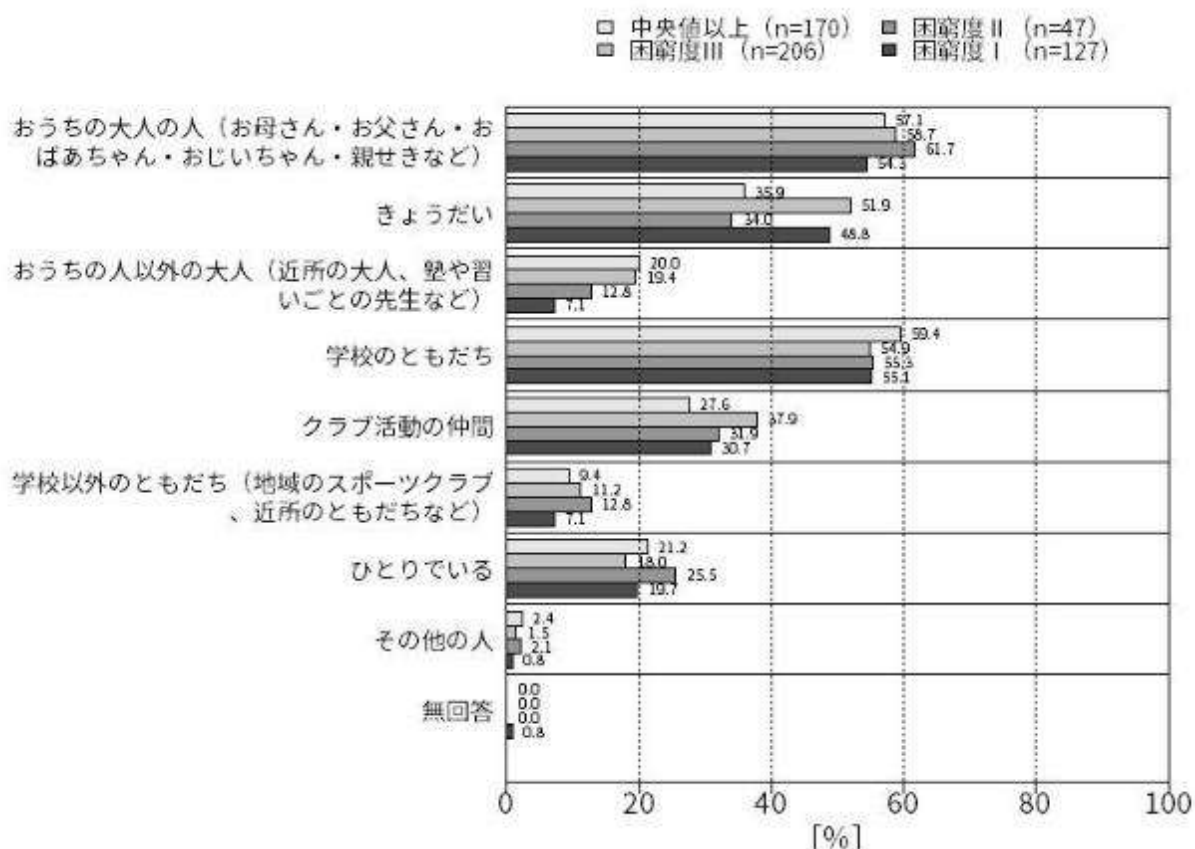
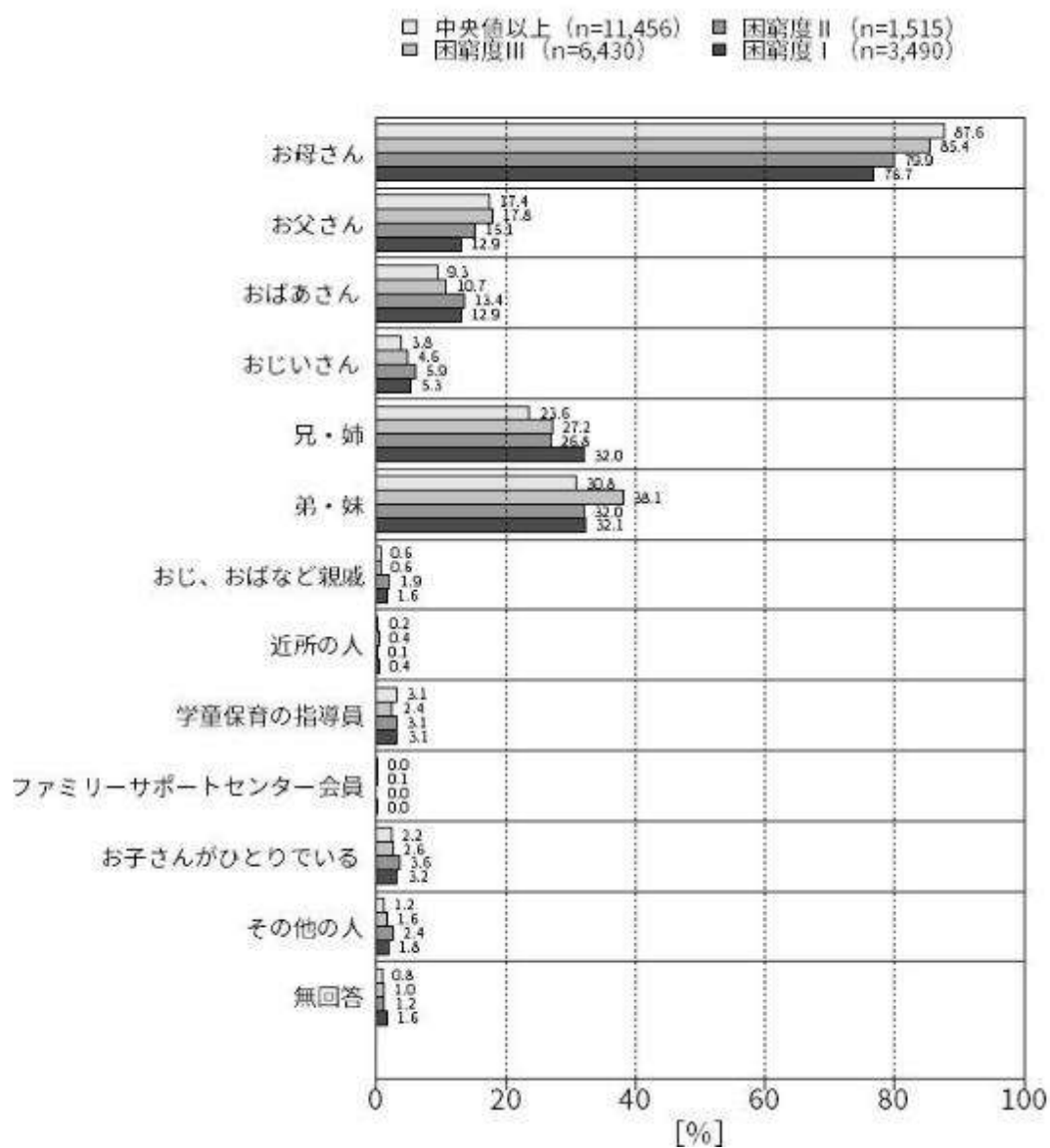


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「その他の人」2.4% (困窮度Ⅰ群に対して、3.0 倍)、「おうちの人以外の人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」20.0% (2.8 倍)、「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」9.4% (1.3 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



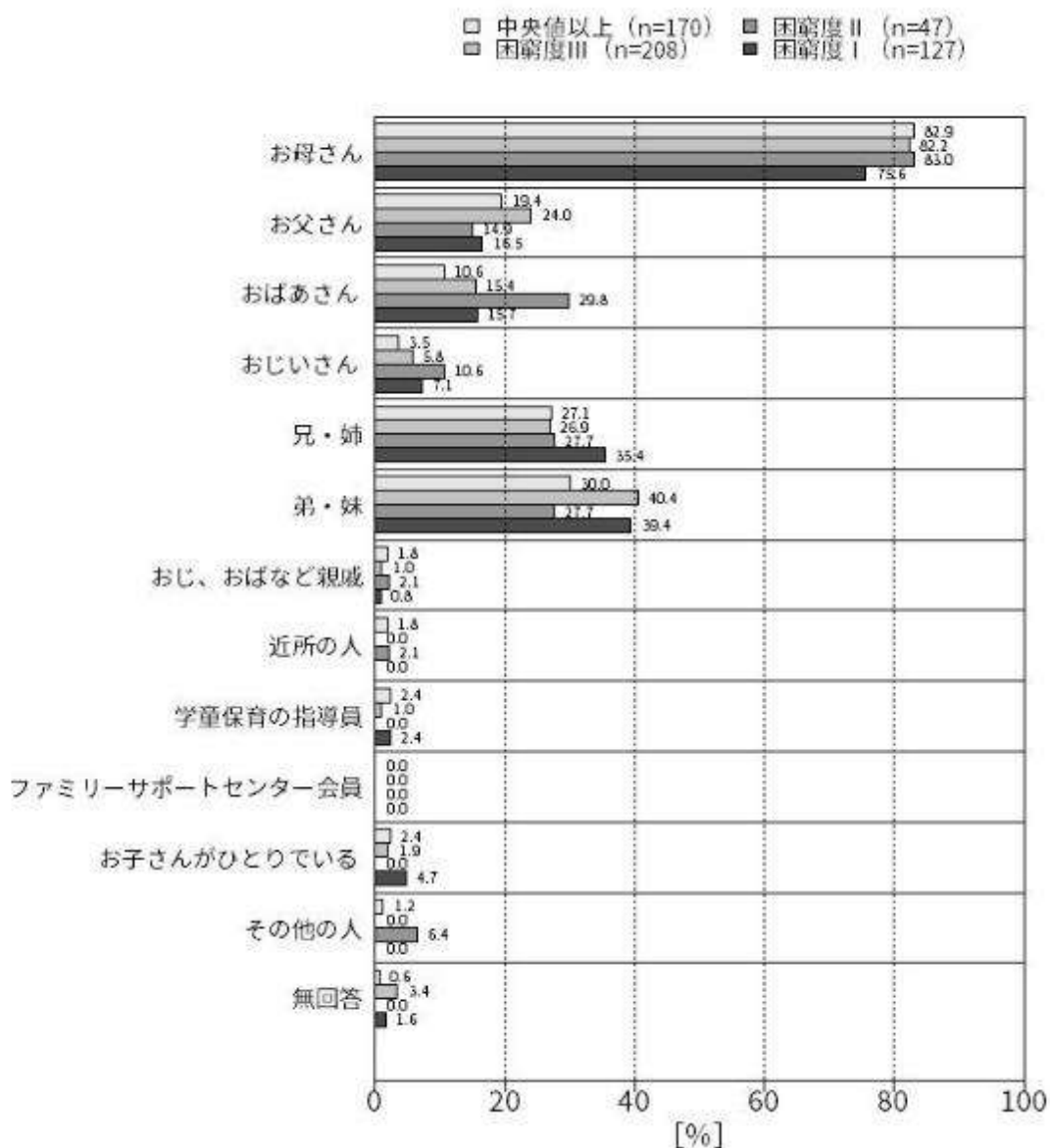
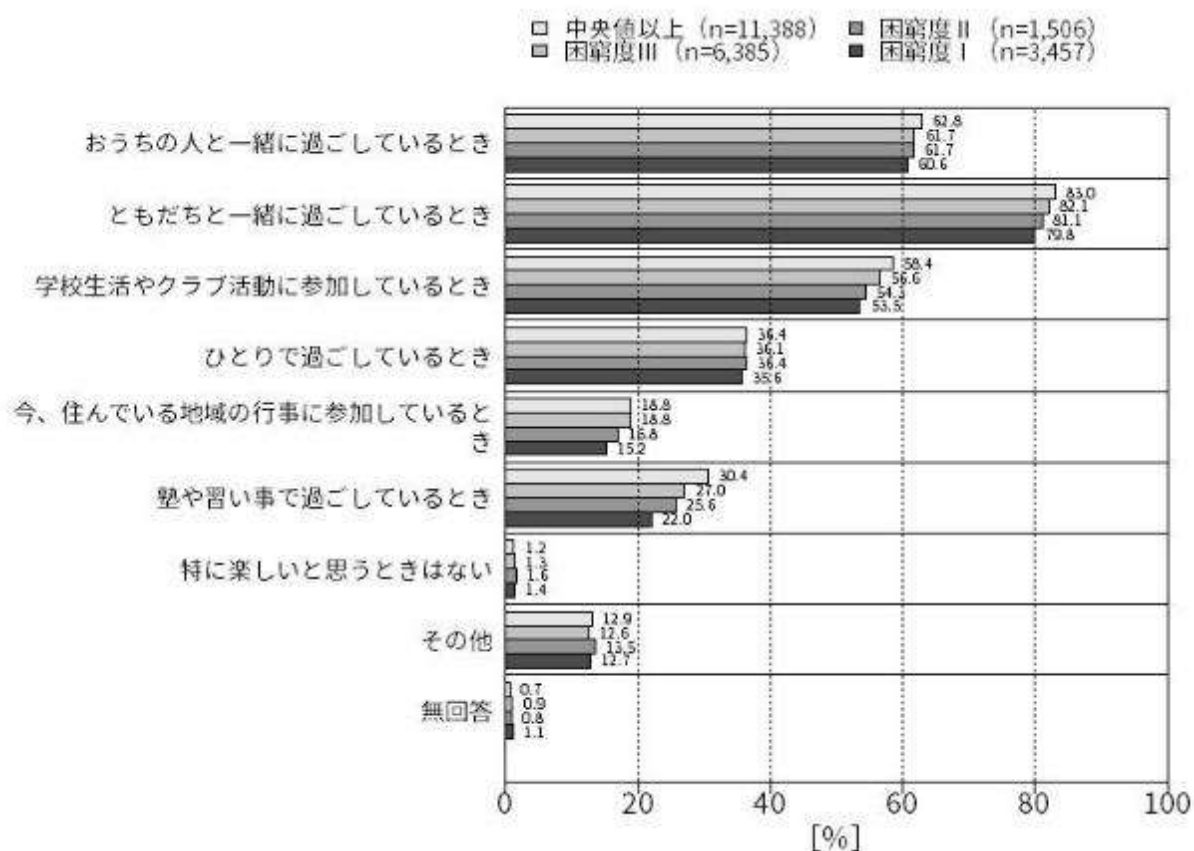


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじいさん」7.1%（中央値以上群に対して、2.0倍）、「お子さんがひとりである」4.7%（2.0倍）、「おばあさん」15.7%（1.5倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



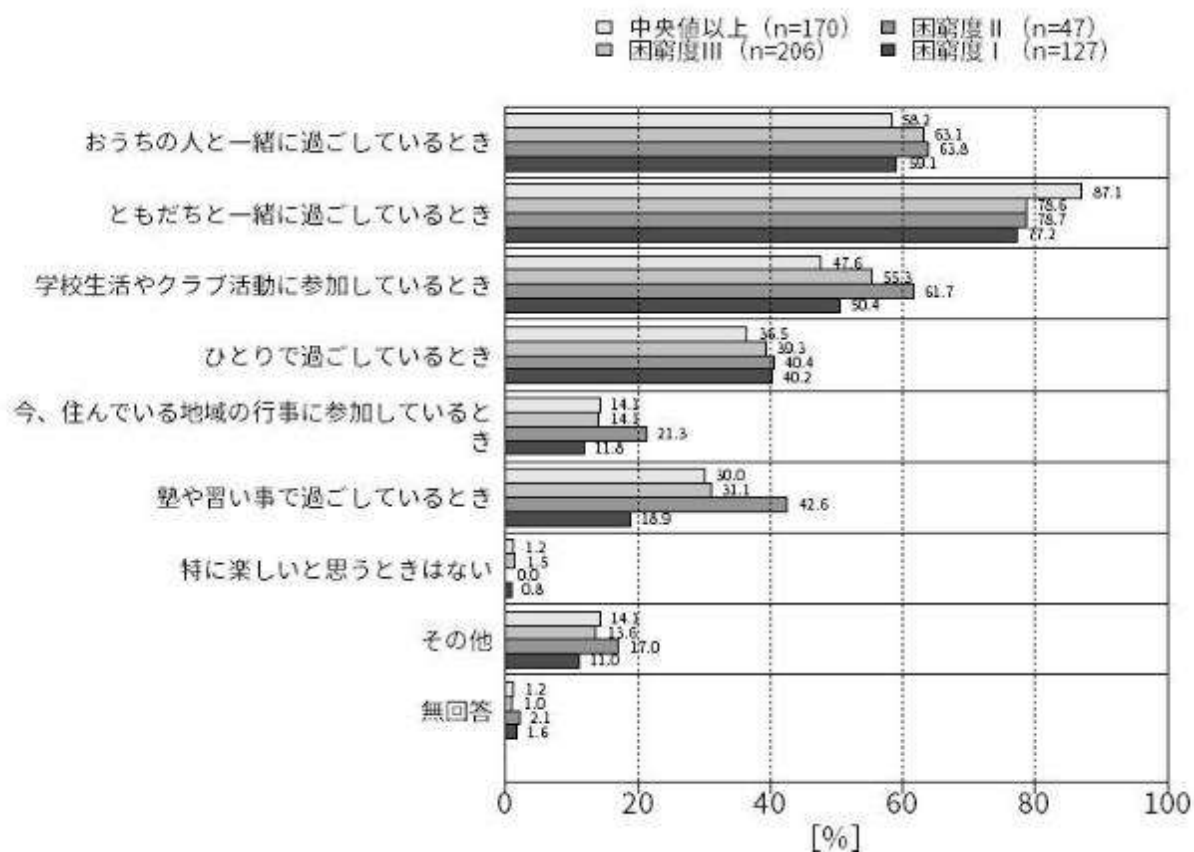
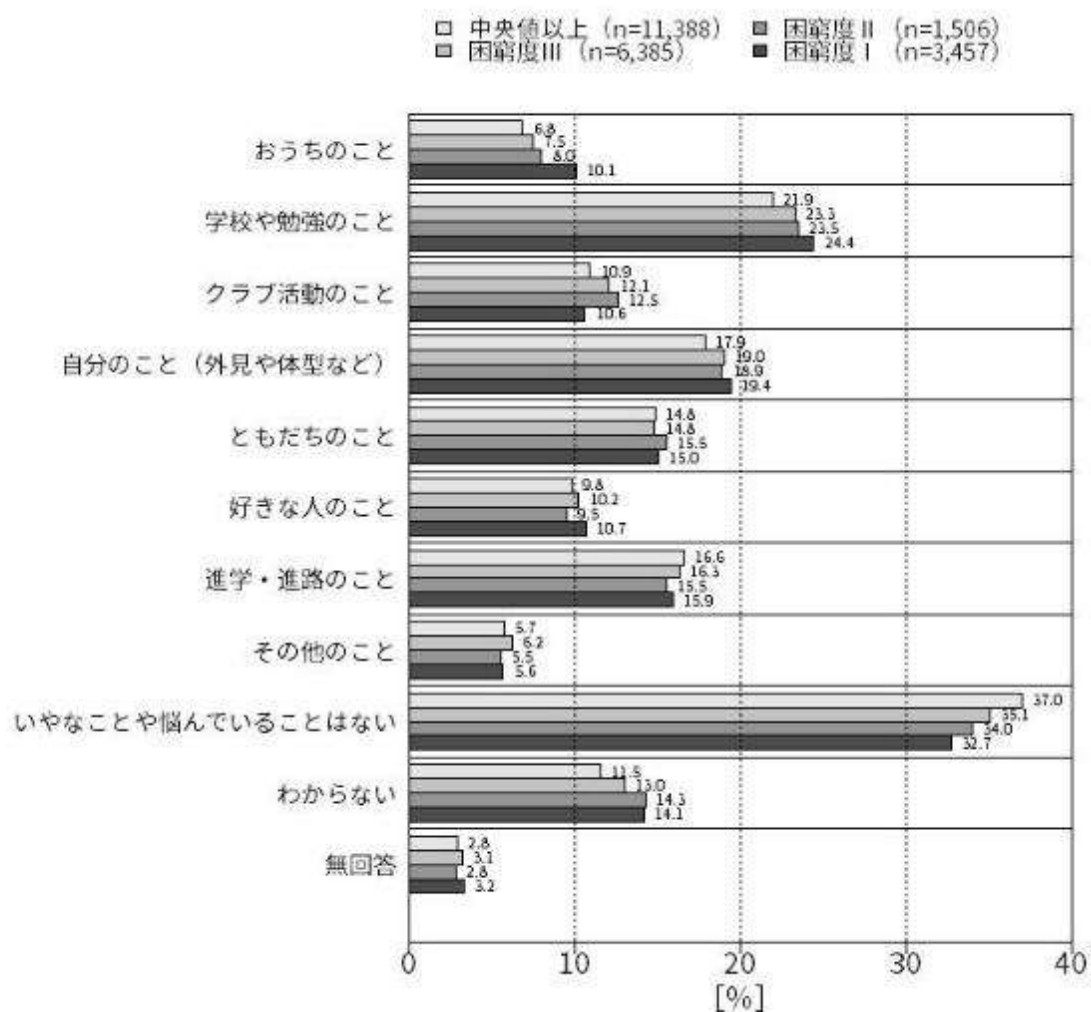


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ひとりで過ごしているとき」40.2%（中央値以上群に対して、1.1 倍）、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」50.4%（1.1 倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



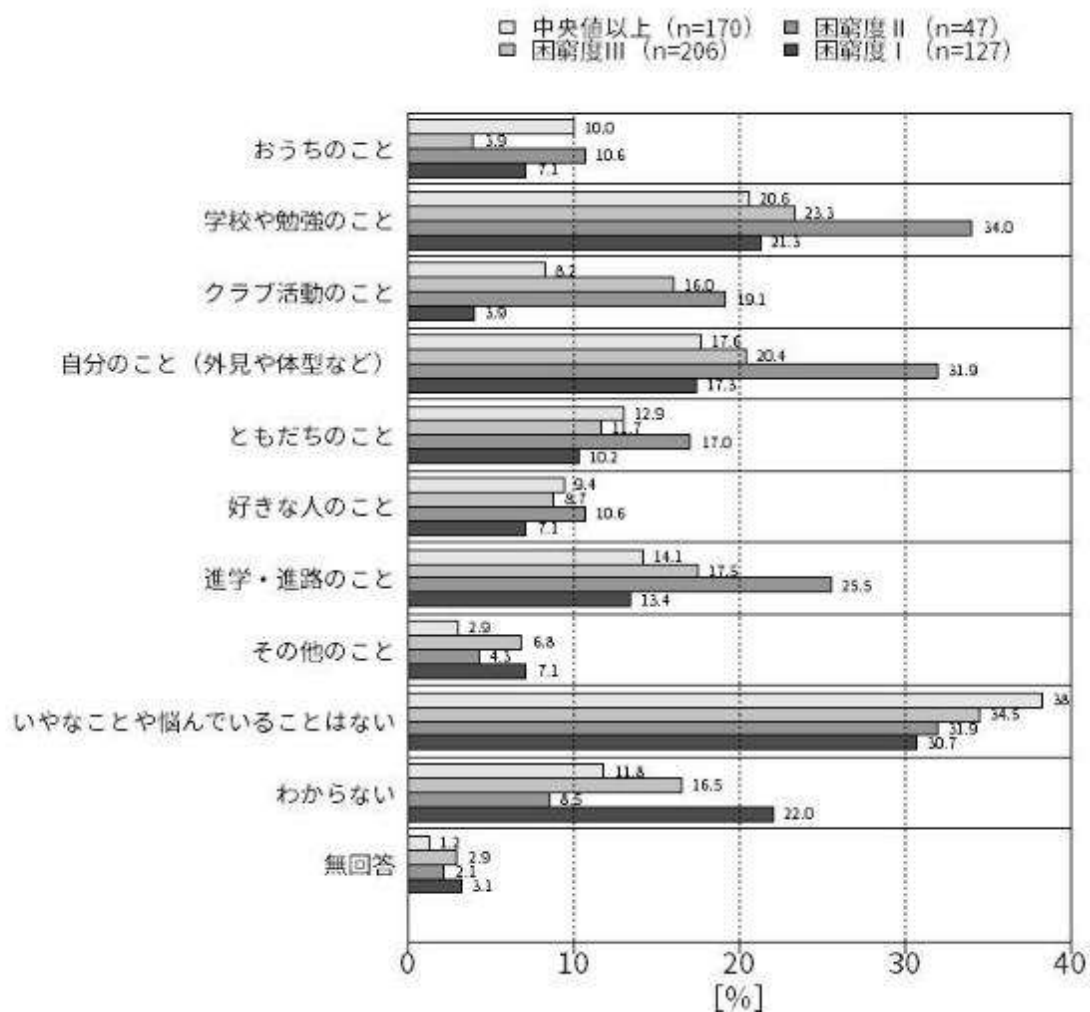


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「その他のこと」7.1%（中央値以上群に対して、2.4倍）、「わからない」22.0%（1.9倍）が高く、中央値以上群では「クラブ活動のこと」8.2%（困窮度Ⅰ群に対して、2.1倍）が高かった。